

COMPUTER SEWING MACHINE

HZL-78H

取扱説明書

JA



注意

安全にご使用していただくため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでもご覧になれますように保管してください。

この度は、本製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

ご使用になる前に「安全にご使用していただくために」をよくお読みいただき、この取扱説明書で機能や使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。

お読みになった後はいつでもご覧になれるところに保証書とともに保管してください。

製品改良のため、本体の色・デザイン・仕様など予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

マニュアルは、改善のため変更することがあります。



上記のマニュアルは、インターネットで最新版を公開しています。（マニュアルのほか、お使いになるうえでの注意事項を公開しています）

https://www.juki.co.jp/household_ja/vc-files/doc/pdf/HZL-78H_manual.pdf


安全にご使用していただくために

この取扱説明書および製品に使われている表示や絵文字は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになられる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

警告表示は以下のように使い分けています。

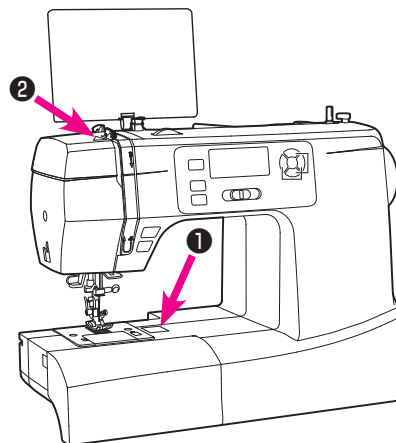
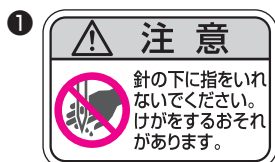
 警告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵文字の意味は次のとおりです。

	注意すること		感電の危険があります		火災の危険があります
	手などへの傷害の危険があります		してはいけないこと		分解、改造をしないでください
	針の下に指を入れないでください		必ず行うこと		電源プラグをコンセントから抜いてください

警告ラベルについて

ミシン本体には下記の警告ラベルが表示されています。
警告表示の注意事項を守って作業を行ってください。
また、警告ラベルは、はがれたり、傷ついたりしないよう十分注意してください。
万一ラベルがはがれていたり、読み取れなくなった場合は速やかに販売店にご連絡ください。








このミシンを正しく安全にご使用していただくために、下記のことがらを必ずお守りください。






このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。













This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.





警告

	一般家庭用交流電源 100V の電圧以外では、絶対に使用しないでください。
	下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。 <ul style="list-style-type: none">● ミシンのそばを離れるとき。● ミシンをご使用になったあと。● ミシンのご使用中に停電したとき。● ミシンをお手入れするとき。● ミシンを移動させるとき。● 接触不良・断線などで正常に動作しないとき。● 雷が鳴りはじめたとき。
	電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
	直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロン、火の消えていないたばこ、ろうそくなど火の気のあるもののそばや温度の高いところでは使用しないでください。 ミシン内部の温度が上がったり、電源コードの皮膜等が溶けて火災・感電の原因となります。 ミシンの使用温度は 5℃～ 40℃です。
	スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどの原因となります。

注意

	延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
	電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・緩んだコンセントは使用しないでください。
	長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。
	電源プラグやフットコントローラーを抜くときは、まず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。コード部分を引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。

	<p>電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。</p> <p>電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめてお買い上げの販売店にご連絡ください。</p>
	<p>ミシン本体の換気口をふさがないようにください。換気口は必ず壁から 30 cm 以上離して使用し、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。</p>
	<p>ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。</p>
	<p>以下の場所に設置、保管しないでください。故障の原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 温度が著しく高くなる場所 • 温度が著しく低くなる場所 • 急激に温度が変化する場所 • 湿気、湯気の多い場所 • 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所 • 野外や直射日光の当たる場所 • ほこり、油煙の多い場所
	<p>フットコントローラーの上に物をのせないでください。けが、故障の原因となります。</p>
	<p>付属の電源コードおよびフットコントローラーは本機種専用となります。付属以外の電源コードおよびフットコントローラーはご使用にならないでください。</p>
	<p>お客様ご自身での分解、改造はしないでください。指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は販売店にご依頼ください。</p>
	<p>ミシンを操作するときにはかま部などカバー類を閉じてください。けがの原因となります。</p>
	<p>ミシンの縫製中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車（プーリー）、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。けがの原因となります。</p>
	<p>曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。</p>
	<p>縫製中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。けが、針折れの原因になります。</p>
	<p>お子様の玩具としては使用しないでください。お子様がミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してご使用してください。</p>

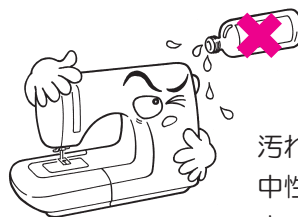
	<p>下記のことを行うときは、電源スイッチを切り取扱説明書の指示通りに正しく行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。 ● 下糸をセットするとき。
	<p>取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。</p>
 	<p>ミシンやフットコントローラーに下記の異常があるときは、速やかに使用を停止し、販売店にて点検、修理、調整をお受けください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 煙が出ている。 ● 正常に作動しないとき。 ● 落下などにより破損したとき。 ● 水に濡れたとき。 ● 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。 ● 異常な臭い、音がするとき。 ● 異物が入ったとき。
  	<p>ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。 万が一異物が入った場合はミシンの使用をやめてお買い上げの販売店にご連絡ください。</p>
	<p>針の下に指などを入れないでください。けがをするおそれがあります。</p>
	<p>ミシン本体には、取扱説明書に記載されている正規部品をご使用ください。他の部品を使用するとけが・故障の原因となります。</p>
	<p>ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか、破棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。</p>
	<p>ミシン本体は、必ずハンドル（取っ手）を持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落としたりして、けがの原因になります。</p>
	<p>リッパーで穴を開ける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。本来の使用目的以外での使用はしないでください。</p>
	<p>布地と糸と針の組み合わせは、「布地に適した針と糸の選び方」の説明表に従って適切な組み合わせでご使用ください。 組み合わせが適切でない場合、特に厚い布地（デニムなど）を細い針（11番以下）でぬうと針が折れ、思わぬ怪我をする可能性があります。</p>
	<p>上糸、下糸などに関する操作については取扱説明書の指示通りに正しく行ってください。取扱を誤ると縫製中に糸がらみなどを発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。</p>

その他のご注意

- 直射日光が当たる場所、湿気が多い場所には置かないでください。



- シンナーなどの溶剤でふかないでください。

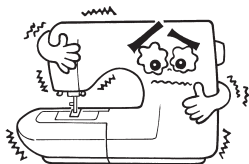


汚れたときは、やわらかい布に中性洗剤を少量つけて、よくふきとってください。

このミシンはマイクロコンピューター、半導体電子部品や精密な電子回路を内蔵していますので、下記の状態がおこる場合があります。ご注意ください。

- 5℃～40℃の範囲でお使いください。

温度がいちじろしく低い場合、正常に動かないことがあります。



- 長時間のゆっくりぬいを続ける、あるいは高温環境下で長時間ぬい続けると異常発熱を防ぐため、安全装置が働き、ミシンが止まるようになっています。

約10分で安全装置が復帰して正常にご使用できます。



QRコードから操作サポートビデオにアクセスすることができます。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PL4P7rfeya4jJf-IRL91kzcfIVSDGRT4cf>

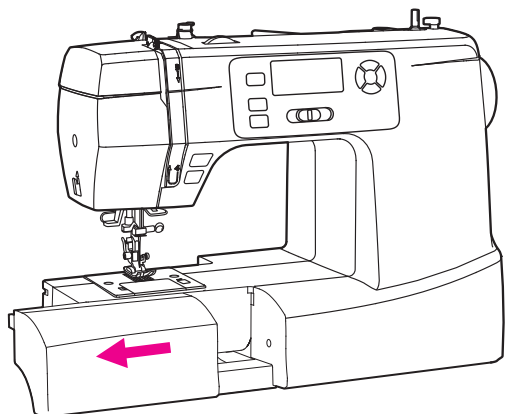
もくじ

補助テーブル・付属品.....	8
各部の名称とはたらき.....	9
左側面・前面.....	9
右側面・背面.....	9
各部の操作とはたらき.....	10
操作部.....	10
液晶画面の表示内容.....	13
ぬい模様一覧.....	14
電源のつなぎかた.....	16
電源を入れます.....	16
電源を切ります.....	16
警告機能.....	17
警告音.....	17
警告表示.....	17
下糸をセットしましょう.....	18
糸コマをセットします.....	18
ボビンを取り出します.....	18
下糸を巻きます.....	19
ボビンをカマにセットします.....	21
上糸を通しましょう.....	22
上糸をかけます.....	22
糸通しの使い方.....	24
用途によって、下糸を引き上げ使用する際は次のように行います.....	25
針を取り替えるには.....	26
布地に適した針と糸の選び方.....	27
押えを取り替えるには.....	28
押えを取り外します.....	28
押えを取り付けます.....	28
シームガイドのつけ方.....	28
模様の選び方.....	29
糸調子の合わせ方.....	30
上糸調節ダイヤル.....	30
布・糸がつれている場合.....	30
上糸が強い場合.....	30
上糸が弱い場合.....	30

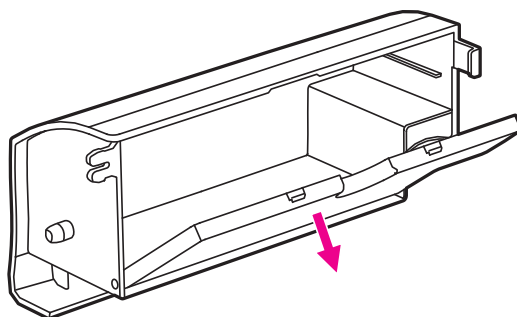
もくじ

基本ぬい（直線ぬいとジグザグぬい）	31
ぬい目の長さを調整	31
ぬい目の幅を調整	31
基本のぬい方	32
ぬい方向をかえるには	33
返しぬい	33
止めぬい	33
厚地のぬい方	34
段ぬい	34
伸縮ぬい	35
裁ち目かがり	36
ジグザグ押えを使用するとき	36
縁かがり押えを使用するとき	36
ボタンホール	37
芯入りボタンホール	40
まつりぬい	41
ファスナー付け	43
つきあわせ	43
ファスナー付け	44
脇あき	44
スライダーをよけてぬうには	44
ボタン付け	45
サテン模様	46
スカラップ	47
ファゴティング	48
パッチワーク	49
ミシンのお手入れ	50
内カマと送り歯の掃除	50
LED ライトの交換	50
困ったときには	51
フットコントローラー	53
接続の仕方	53
コントローラーの使い方	53
針上下停止位置の設定変更	53
ワイドテーブル	54
取り付け方	54

補助テーブル・付属品



補助テーブルは左方向へ引くと外れます。
※外すとフリーアームになります。



付属品箱は、手前方向に開けてください。
※こちらには、下記付属品の一部が入っています。

付属品 ※必ず下記付属品が入っていることを確認してください。

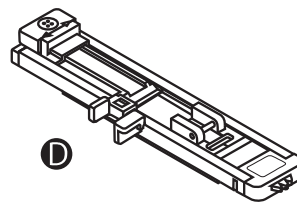


ジグザグ押え

(ミシン本体についています)



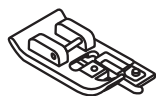
ファスナー押え



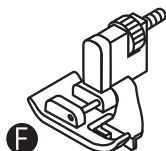
ボタンホール押え



ボタンつけ押え



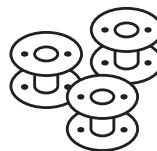
縁かがり押え



ブラインドステッチ押え



サテン押え



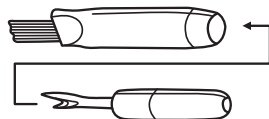
ボビン



三角ドライバー



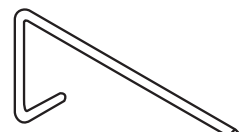
ドライバー (小)



ブラシ付きリッパー



針パック



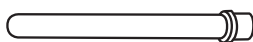
シームガイド



糸コマ押え(大)



糸コマ押え(小)
※糸コマが細い時には、こちらの押えを使用して下さい。



補助糸立棒



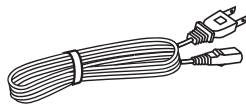
糸コマ座



模様一覧プレート



プレートスタンド



電源コード

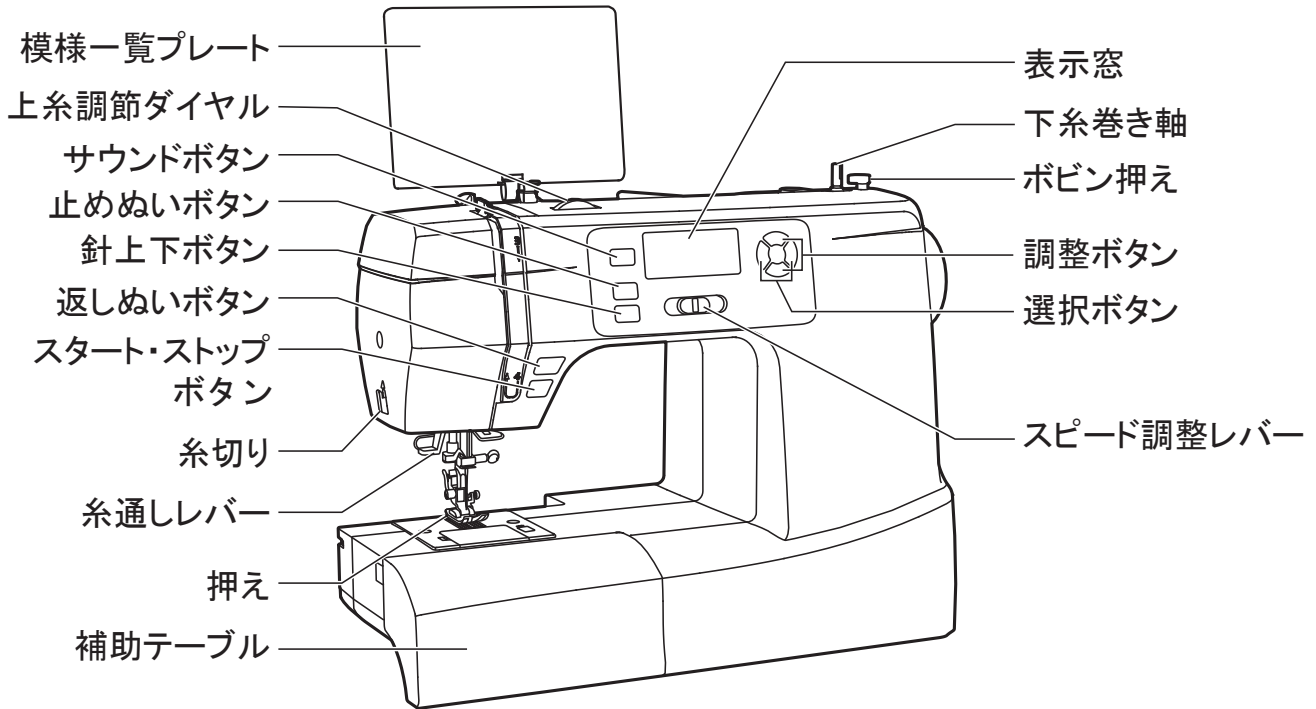


取扱説明書

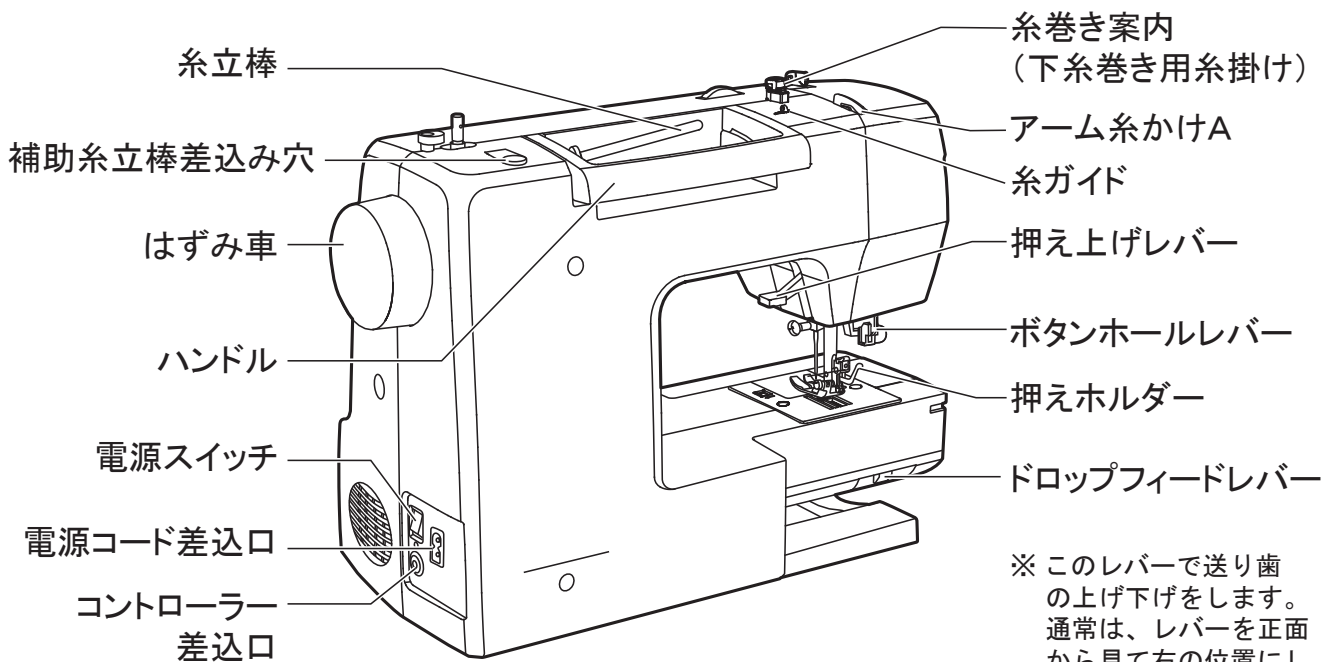
各部の名称とはたらき

ここでは、ミシンの各部の名称とはたらきを説明します。ミシンをご使用になる前に、よく読んで各部の名称を覚えておきましょう。

● 左側面・前面

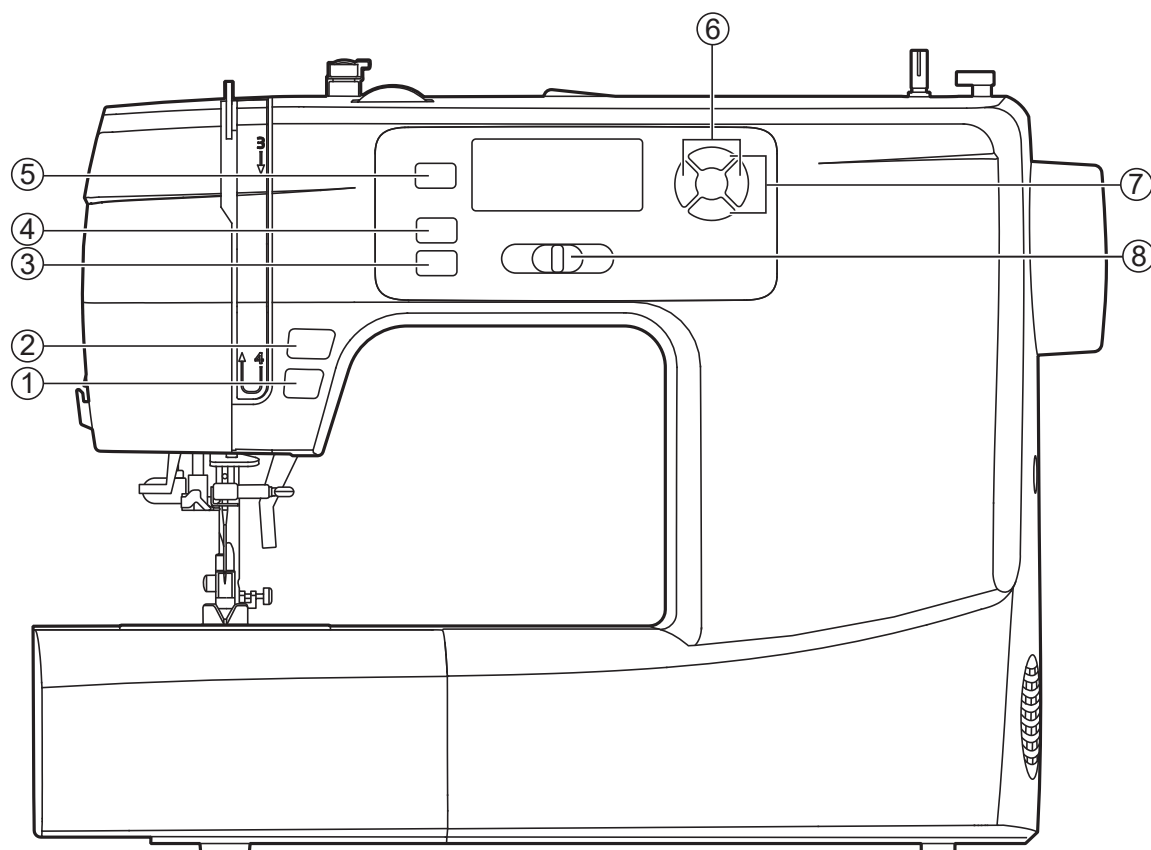


● 右側面・背面



※ このレバーで送り歯の上げ下げをします。通常は、レバーを正面から見て右の位置にしておきます。(操作説明はP12参照)

各部の操作とはたらき



● 操作部 ミシンを動かす基本的な操作が手元でできます。

①スタート・ストップボタン

ミシンをスタートまたはストップします。ボタンを押すとゆっくり動き出し、スピード調整レバーでセットした速さで動き始めます。

もう一度押すと停止します。

※下糸巻き軸が右に寄っているときは、針は上下しないで下糸巻き軸だけ回ります。



②返しぬいボタン

模様 00 ~ 05 を選択後に返しぬいボタンを押すと、押している間返しぬいをして、手を放すと止まります。

※裁縫中にボタンを押すと返しぬいになり、放すと前進ぬいになります。

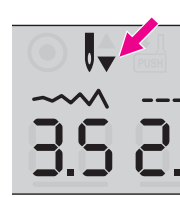


各部の操作とはたらき

③針上下ボタン

ボタンを押すたびに針の位置を上または下に切り替えます。続けて押すと、1針ぬいになります。

また、ぬい始めにこのボタンで針を下に下げスタートした場合、停止時に針は下で止まり、上に上げてスタートした場合は、上で止まります。



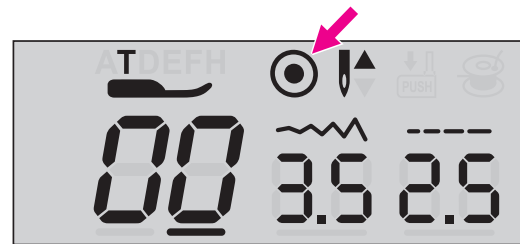
④止めぬいボタン

(1) 3針止めぬい

模様 00 ~ 19 を選択後に、止めぬいボタンを押すと3針止めぬいをして自動的に止まります。

(2) 模様完結止めぬい

29 ~ 99 の模様ぬいのとき、ボタンを押すと、模様の完了するところで止めぬいをして自動的に止まります。ボタンホール等の 20 ~ 28 の模様では、使用できません。



⑤サウンドボタン

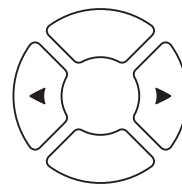
初期設定時は、音が出る、ON の状態で設定されています。電源が入っている時にこのボタンを押すと、一回音がしてから OFF になり、音が出ない時に、このボタンを押すと、2回音がして ON に変わります。

電源を入れた時は、ボタンの音は電源を切る前の設定になっています。



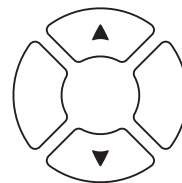
⑥選択ボタン

調整したい項目を左右に選択でき、画面下部の横線が同時に調整したい項目の下に移動します。(模様 / ふり幅 / ぬい目)



⑦調整ボタン

選択した項目の値を上下に調整できます。(模様 / ふり幅 / ぬい目)



各部の操作とはたらき

⑧スピード調整レバー

ミシンのぬうスピードを設定します。お好みのスピードにセットしてください。

左側に寄せると遅くなり、右側に寄せると速くなります。



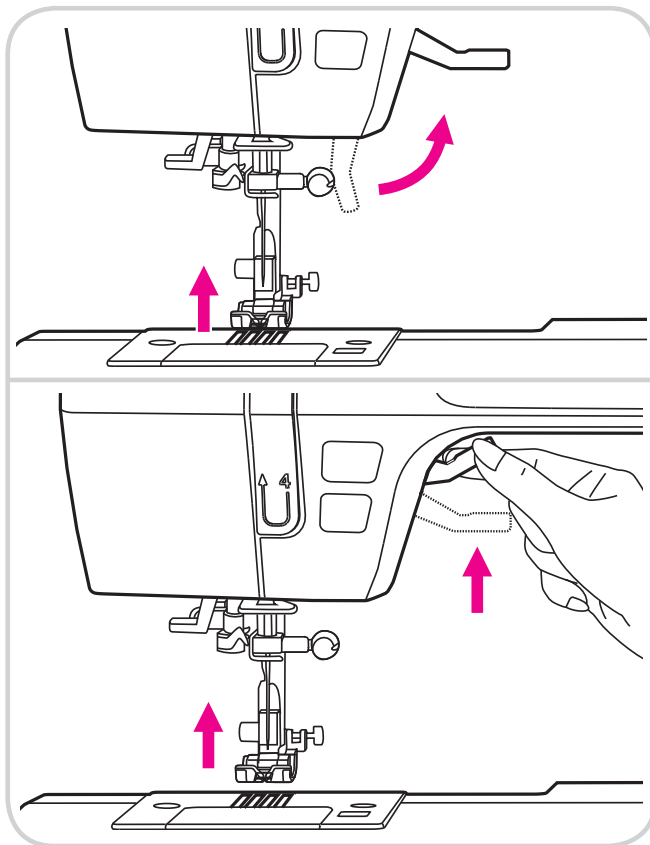
⑨押え上げレバー

布を押えたり、布を引き出すときに、押え上げレバーを使用して押えを図のように上げ下げします。

布を何枚か重ねてぬうときや、厚い布地をぬうとき、これらの布を押えの下に入れやすくするため、押えをさらに上にあげることができます。

※この時レバーは固定されません。

手を放すとレバーは普通に上げた位置に戻ります。



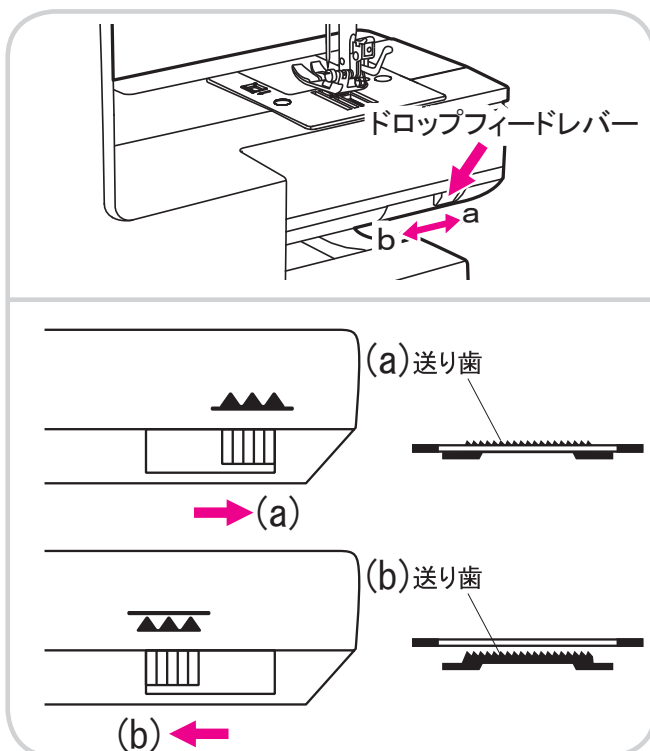
⑩ドロップフィードレバー

(送り歯の上げ下げ)

本体の背面下部に送り歯を上げ下げできる、ドロップフィードレバーがあります。

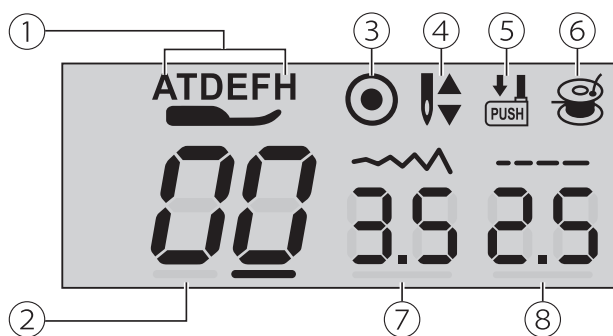
針を上にした状態で、レバーをスライドして (b) 位置にセットすると、送り歯が、針板上面より下に沈みます。

また、(a) 位置にセットして、はずみ車を手前に回すと、送り歯が針板上面に出てきます。



液晶画面の表示内容

- ① 模様に適した押えの記号を表示
- ② 模様番号表示
- ③ 止めぬい表示
- ④ 針上下位置表示
- ⑤ ボタンホールレバー警告表示
- ⑥ 下糸巻き表示
- ⑦ 針のふり幅表示
- ⑧ ぬい目の長さ表示



ぬい模様一覧

※返しぬいに*がついた模様は、返しぬい、止めぬい両方できます。

模様		ふり幅(変更単位:mm)		ぬい目の長さ(変更単位:mm)		押え番号	返しぬい	止めぬい	
		自動	手動	自動	手動				
実用模様	00		3.5	0.0~7.0	2.5	0.0~4.5	T	*	*
	01		0.0	0.0~7.0	2.5	0.0~4.5	T	*	*
	02		0.0	0.0~7.0	2.5	1.0~3.0	T	*	*
	03		1.0	1.0~6.0	2.5	1.0~3.0	T	*	*
	04		3.5	0.0~7.0	2.5	1.5~3.0	T	*	*
	05		5.0	0.0~7.0	2.0	0.3~4.5	T	*	*
	06		5.0	2.0~7.0	1.0	0.3~4.5	T		*
	07		5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	T		*
	08		5.0	4.5~5.5	2.5	1.0~3.0	E		*
	09		5.0	3.5~7.0	2.5	1.0~3.0	T		*
	10		5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	T		*
	11		5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	T		*
	12		3.5	1.0~6.0	2.0	0.5~4.5	F		*
	13		3.5	1.0~7.0	2.0	0.5~4.5	T		*
	14		3.5	2.5~6.0	1.5	0.5~4.5	F		*
	15		3.5	2.5~7.0	1.0	0.5~4.5	T		*
	16		5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	T		*
	17		7.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	A		*
	18		5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	A		*
19		5.0	2.5~7.0	2.0	1.0~3.0	A		*	
ボタンホール	20		5.0	3.0~7.0	0.4	0.3~1.0	D		
	21		5.0	3.0~7.0	0.4	0.3~1.0	D		
	22		5.0	3.0~5.5	0.4	0.3~1.0	D		
	23		5.0	3.0~5.5	0.4	0.3~1.0	D		
	24		7.0	5.5~7.0	0.4	0.3~1.0	D		
	25		7.0	5.5~7.0	0.4	0.3~1.0	D		
	26		7.0	5.5~7.0	0.4	0.3~1.0	D		
ボタン付け	27		3.5	2.5~4.5	—	—	H		
かんぬき止め	28		2.0	1.0~3.0	0.5	0.5~1.0	D		
サテン模様	29		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A		*
	30		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A		*
	31		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A		*
	32		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A		*
	33		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A		*
	34		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A		*
	35		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A		*
	36		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A		*
	37		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A		*
	38		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A		*
	39		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A		*
	40		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A		*
	41		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A		*
	42		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A		*
	43		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A		*
	44		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A		*
	45		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A		*
	46		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A		*
	クロス模様	47		5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	A	
48			5.0	3.0~7.0	2.0	1.0~3.0	A		*

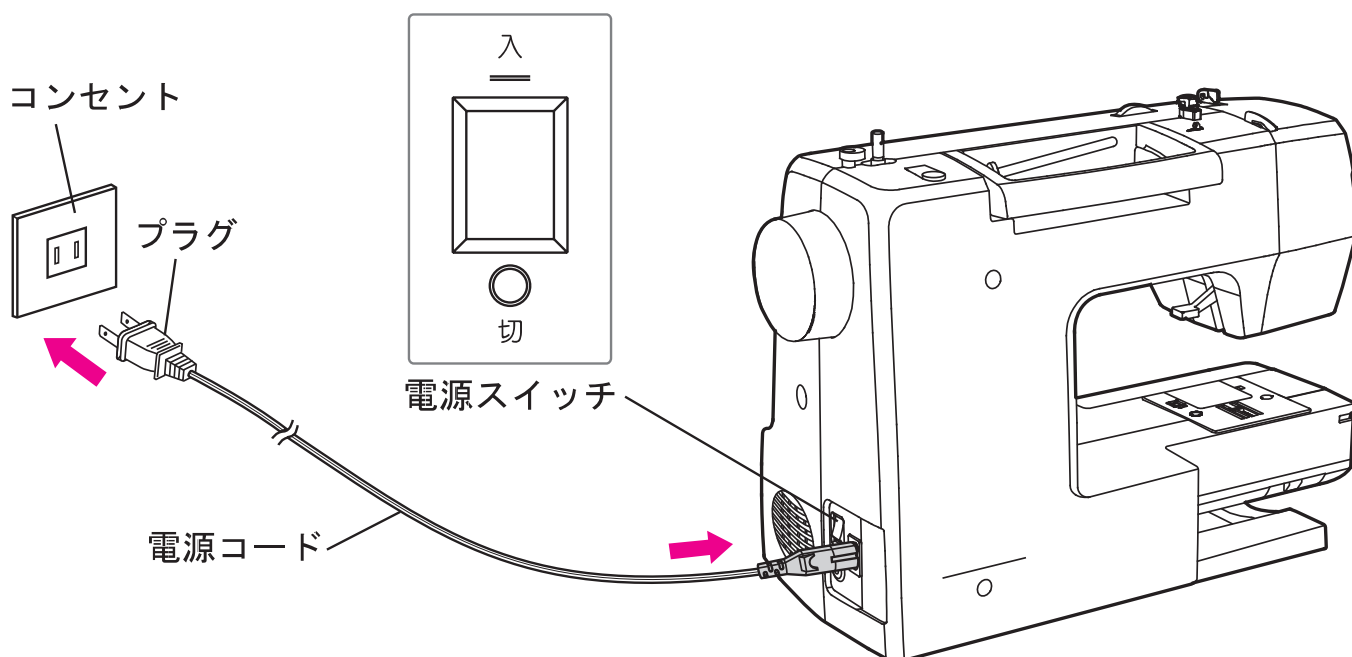
ぬい模様一覧

模様		ふり幅(変更単位:mm)		ぬい目の長さ(変更単位:mm)		押え番号	返しぬい	止めぬい
		自動	手動	自動	手動			
クロス模様	49		6.5	3.0~7.0	1.5	1.0~3.0	A	*
	50		6.0	3.0~7.0	1.5	1.0~3.0	A	*
パッチワークキルト	51		3.5	2.5~7.0	2.5	1.5~3.0	T	*
	52		3.5	2.5~7.0	2.5	1.5~3.0	T	*
	53		3.5	2.5~7.0	2.5	1.5~3.0	T	*
	54		4.0	2.5~7.0	2.0	1.0~3.0	T	*
	55		7.0	3.0~7.0	1.5	1.0~3.0	T	*
	56		5.0	2.5~7.0	2.0	1.0~3.0	A	*
	57		6.0	3.0~7.0	2.0	1.0~3.0	T	*
飾り模様	58		5.0	3.0~7.0	3.0	2.0~3.0	A	*
	59		7.0	2.5~7.0	2.0	1.0~3.0	T	*
	60		7.0	2.5~7.0	2.5	1.5~3.0	T	*
	61		6.0	2.5~7.0	1.5	1.5~3.0	T	*
	62		7.0	2.5~7.0	1.5	1.0~3.0	A	*
	63		7.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	T	*
	64		7.0	2.5~7.0	1.5	1.0~3.0	T	*
	65		7.0	3.5~7.0	2.0	1.0~3.0	T	*
	66		7.0	3.5~7.0	1.5	1.0~3.0	A	*
	67		5.0	2.5~7.0	1.0	1.0~4.5	T	*
	68		7.0	3.0~7.0	2.0	1.5~3.0	A	*
	69		5.0	2.5~7.0	2.0	2.0~3.0	A	*
	70		7.0	3.0~7.0	2.5	1.0~3.0	T	*
	71		7.0	2.5~7.0	2.0	1.5~3.0	T	*
	72		7.0	3.0~7.0	3.0	1.0~3.0	A	*
	73		7.0	2.5~7.0	3.0	2.0~3.0	A	*
	74		7.0	3.0~7.0	2.0	1.5~3.0	A	*
	75		7.0	2.5~7.0	2.0	1.0~3.0	A	*
	76		5.0	3.5~7.0	1.5	1.5~3.0	A	*
	77		7.0	3.0~7.0	2.5	1.5~3.0	T	*
	78		7.0	3.5~7.0	2.5	1.5~3.0	T	*
	79		7.0	2.5~7.0	3.0	1.0~3.0	T	*
	80		7.0	2.5~7.0	3.0	1.0~3.0	T	*
	81		6.0	2.5~7.0	3.0	1.0~3.0	T	*
	82		5.5	2.5~7.0	1.5	1.0~3.0	T	*
	83		5.0	3.0~7.0	2.0	1.5~3.0	T	*
	84		5.0	3.0~7.0	2.0	2.0~3.0	A	*
	85		7.0	2.5~7.0	1.5	1.5~3.0	A	*
	86		7.0	4.0~7.0	2.5	2.0~3.0	A	*
	87		6.0	4.0~7.0	2.0	1.5~3.0	A	*
	88		7.0	3.0~7.0	3.0	2.0~3.0	A	*
	89		6.0	3.0~7.0	2.0	1.0~3.0	T	*
	90		5.0	2.5~7.0	2.0	1.0~4.5	T	*
91		5.0	2.5~7.0	2.0	1.0~3.0	T	*	
92		5.0	2.5~7.0	2.5	1.5~3.0	T	*	
93		7.0	3.5~7.0	2.5	1.5~3.0	A	*	
94		7.0	2.5~7.0	2.5	1.5~3.0	A	*	
95		7.0	2.5~7.0	2.5	1.5~3.0	T	*	
96		7.0	3.5~7.0	1.5	1.5~3.0	T	*	
97		7.0	5.0~7.0	2.0	2.0~3.0	A	*	
98		5.5	2.5~7.0	1.5	1.0~3.0	T	*	
99		7.0	3.0~7.0	2.0	1.5~3.0	A	*	

電源のつなぎかた

⚠ 警告 感電、火災を防ぐために
電源は必ずプラグを持って抜き差ししてください。

⚠ 注意 ケガ防止のために
○使用中に糸がからんだり、ミシンが止まった場合には電源スイッチを「○（切）」にしてください。
○ミシンを使用しないとき、ミシンから離れるときは、電源コードを外してください。



● 電源を入れます

- ・電源プラグを家庭用電源コンセント (AC100V) に差し込みます。
- ・電源スイッチを「一（入）」にします。
- ・電源が入り、ランプが点灯し、液晶画面にダイレクト選択モード 00（直線）の内容が表示されます。



● 電源を切ります

ミシンを使い終わったら、電源を切ります。また、ミシンを移動するときは、必ず電源を切ってから移動してください。

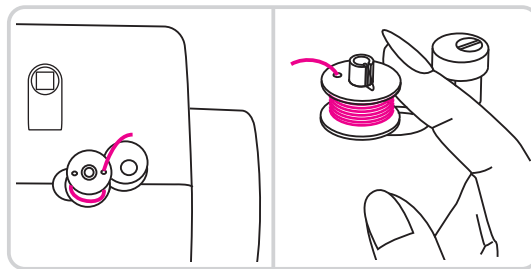
- ・ミシンが止まっていることを確認します。
- ・電源スイッチを「○（切）」にします。電源が切れ、ランプが消えます。
- ・電源プラグを持ってコンセントから抜きます。

警告機能

● 警告音

下糸巻き

下糸巻きが終わったまま、または下糸巻き軸が右側に押されたまま、スタート・ストップボタン以外のボタンを押すと、下糸巻き軸が左側に押されるまで、「ピッピッピッ」と3回警告音が鳴ります。下糸巻きが終わったときは、必ず下糸巻き軸を左に戻しておいてください。



モーター過負荷保護

糸がらみ等で、ミシンに異常な負荷がかかり、モーターがロックした場合、モーターを保護するため、「ピッピッピッ」と警告音が3回鳴り、ミシンは自動的に止まります。51、52ページの「困ったときは」を参照し、原因に対処しても改善されない場合、お買い求めの販売店へご相談ください。

▲ 注意 ケガ防止のために


- ぬっている途中で、糸がカマにからむなどしてミシンがロックすると、警告音がして自動的に止まります。必ず電源を切ってください。
- トラブルを取り除いたあと、電源を入れて再びお使いください。

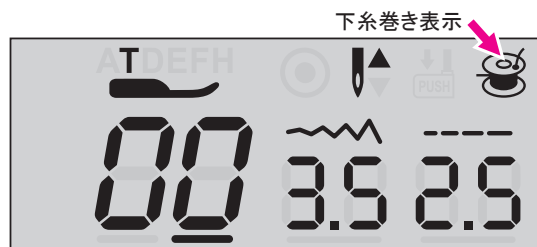
電子音

- ・正しく機能しているとき、「ピッ」と1回鳴ります。
- ・機能がおかしいとき「ピッピッピッ」と3回警告音が鳴ります。
- ・ミシンがトラブルを起こし、ぬえないとき「ピッピッピッ」と3回警告音が鳴ります。


● 警告表示

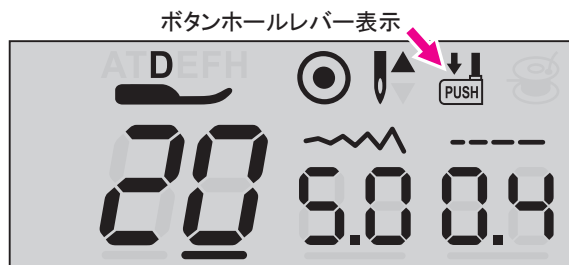
・下糸巻き

下糸巻き軸が右側にあるとき、「」が液晶画面に表示されます。



・ボタンホールレバー

ボタンホールや、つくろいぬいが選ばれると、「ボタンホールレバーを下げてください」という「」が液晶画面に表示されます。

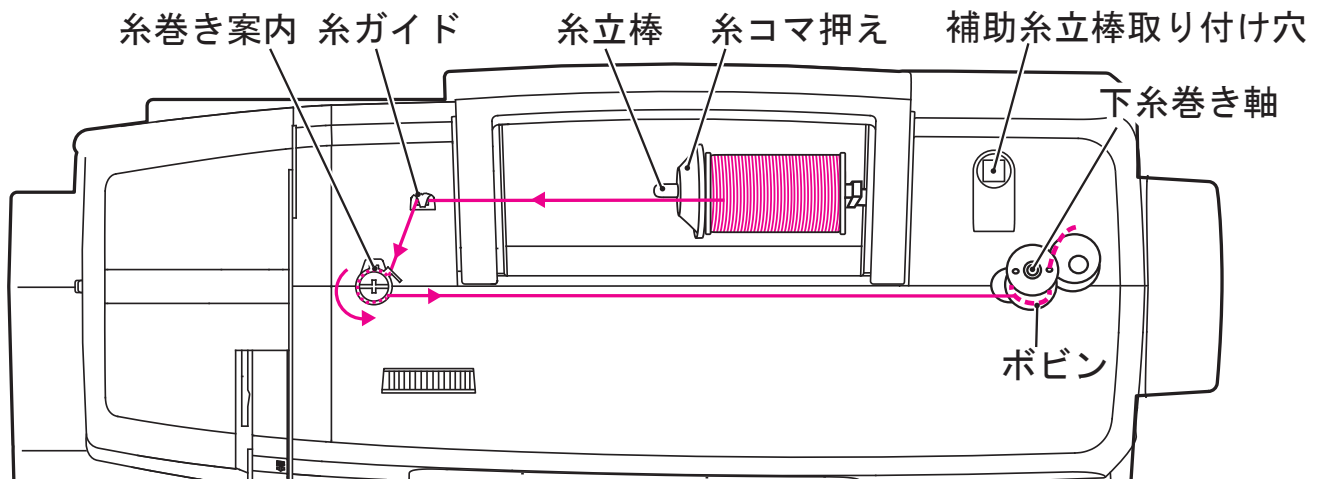


下糸をセットしましょう

下糸用の糸をボビンに巻いてから、ミシンにセットします。

▲注意 ケガ防止のために

- 糸コマの向きや糸コマ押えが正しくセットされていないと、糸立棒に糸がからまり、ボビンにきれいに糸が巻けません。
- ボビンは必ず専用ボビン（高さ11.5mm プラスチック製）を使用してください。専用ボビン以外を使用すると、ミシンが正しく動作しません。ケガ・故障の原因となります。
- ボビンを取り出すときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

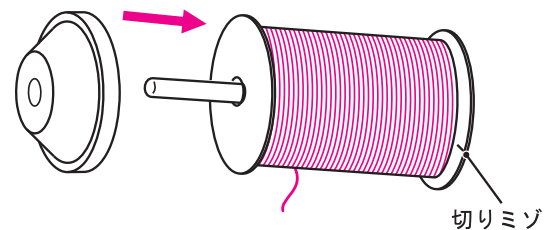


●糸コマをセットします

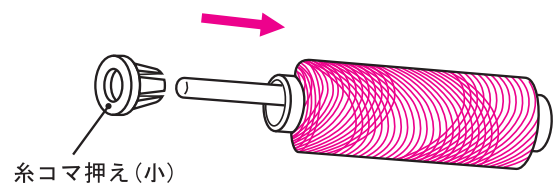
糸立棒を軽く起こし、下側から手前に糸が出る向きにして下糸用の糸コマを入れ、糸コマ押えで糸コマを押えます。

※小さい糸を使用するときは、糸コマ押えを裏にして取り付け、糸コマから少し離してセットします。

糸コマが細い時には、糸コマ押え(小)をご使用ください。

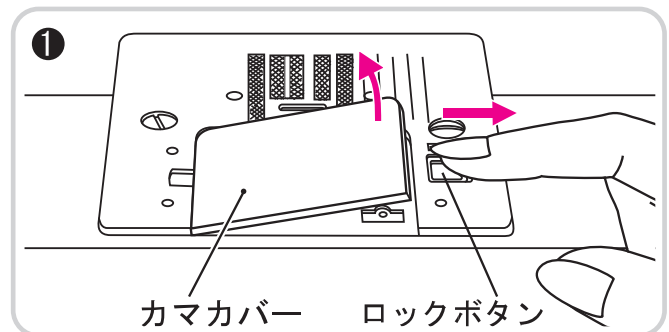


※糸巻きに切りミゾがあるときは、その部分を右側にしてください。



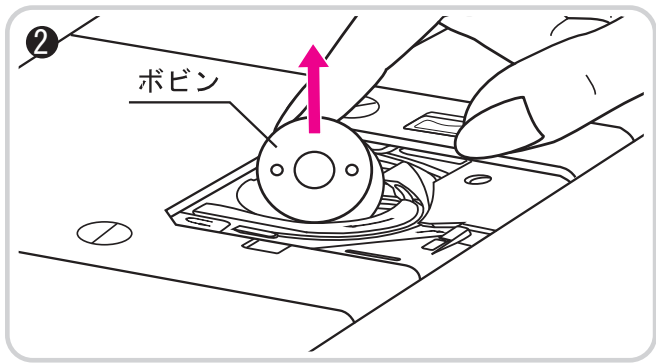
●ボビンを取り出します

- ①カマカバーの右側にあるロックボタンを右に動かします。



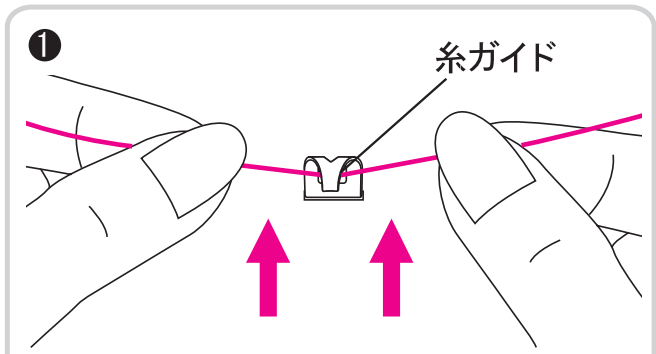
下糸をセットしましょう

② カマカバーを外し、ポビンを取り出します。



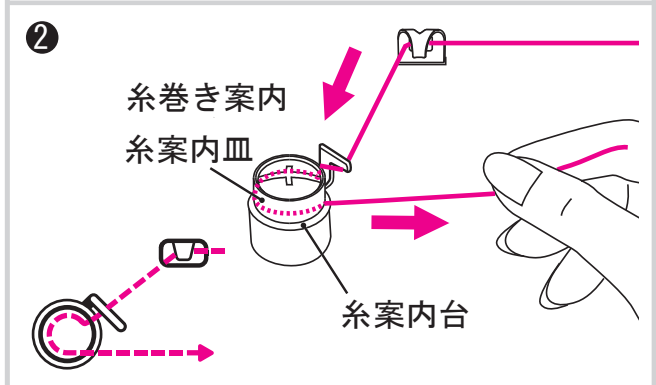
● 下糸を巻きます

① 糸コマから糸を引き出し、糸ガイドの手前から奥に糸をかけます。

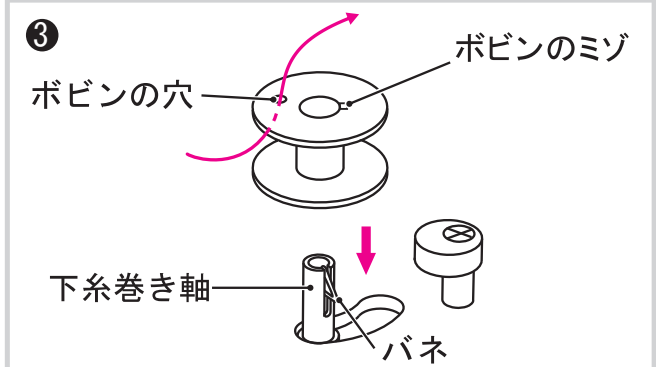


② 糸ガイドから糸が抜けない様に糸を押えながら、糸巻き案内の突起に糸をかけ、糸案内皿と糸案内台の間にしっかり糸が入る様に、左回りにぎゅっと糸を巻きつけ、糸を右に引いていきます。

※正しく糸がかかっていると、糸を右に引いたとき、抵抗感があります。

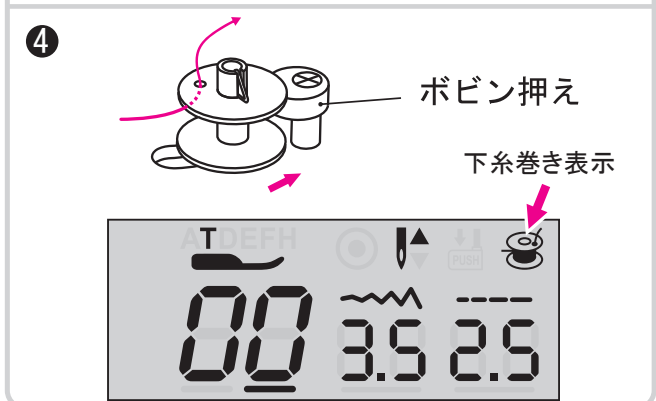


③ 糸案内台にかけた糸を引き出し、ポビンの穴に内から外に通します。ポビンのミゾと下糸巻き軸のバネの位置を合わせて、ポビンを下糸巻き軸に差し込みます。



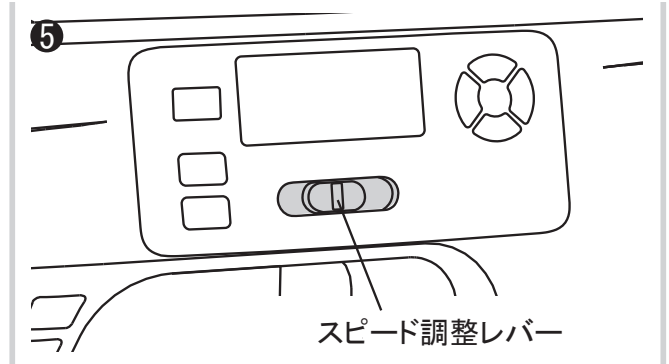
④ ポビンをセットした状態で、下糸巻き軸を右側に押します。

※右側に押したとき、液晶画面に糸巻き表示 "☺" が表示されます。左側に戻すと糸巻き表示が消えます。

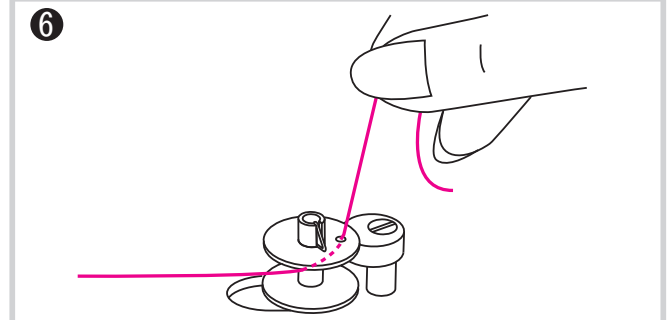


下糸をセットしましょう

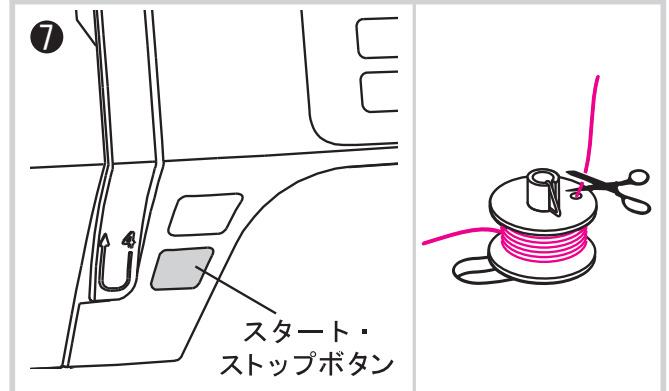
⑤スピード調整レバーで糸を巻くスピードをはやみに設定します。



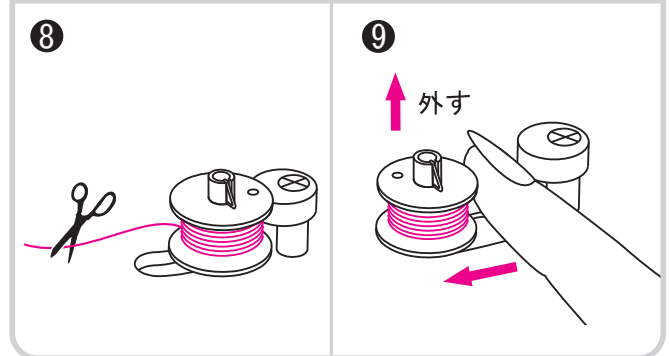
⑥ボビンに通した糸はしを持ったまま、スタート・ストップボタンを押して巻き始めます。



⑦いったん止めてボビンの上の余分な糸を切ります。もう一度スタートします。



⑧巻き終わると、ボビンの回転がゆるやかになります。スタート・ストップボタンを押してミシンを止め、巻き終わりの糸を切ります。



⑨下糸巻き軸を左側に戻し、ボビンを取り外します。

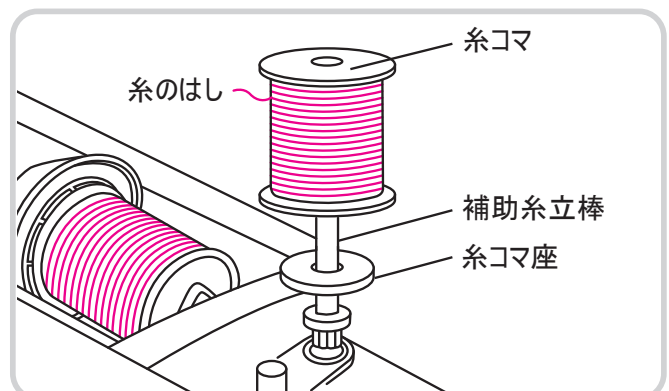
＜補助糸立棒の使い方＞

付属の補助糸立棒を使うと、ミシンに付いている糸立棒に糸コマをセットした状態のまま、別の糸コマで糸巻きができます。

補助糸立棒を使う時は、右図のように補助糸立棒に、糸コマ座を差し込んでから、補助糸立棒取り付け穴（18 ページ参照）に差し込んでください。

下糸巻きの方法は、糸コマから糸を引き出し、①～⑨と同じ手順でボビンに下糸を巻きます。

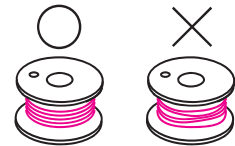
＜補助糸立棒の使い方＞



下糸をセットしましょう

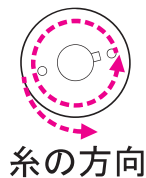
▲ 注意

下糸は正しく巻かれたものをご使用ください。
下糸の巻き方が悪いと、針折れや糸調子不良の原因となります。



● ボビンをカマにセットします

- ① カマカバーを外し、糸のはしを出してカマの中にボビンが左回りになるように入れます。



- ② ボビンを指で押え、糸を図のように矢印方向に引き (A) のツノの下にあるスリットにギュッと糸を押し込み、その後 (B) の位置までギュッとしっかりひっぱります。

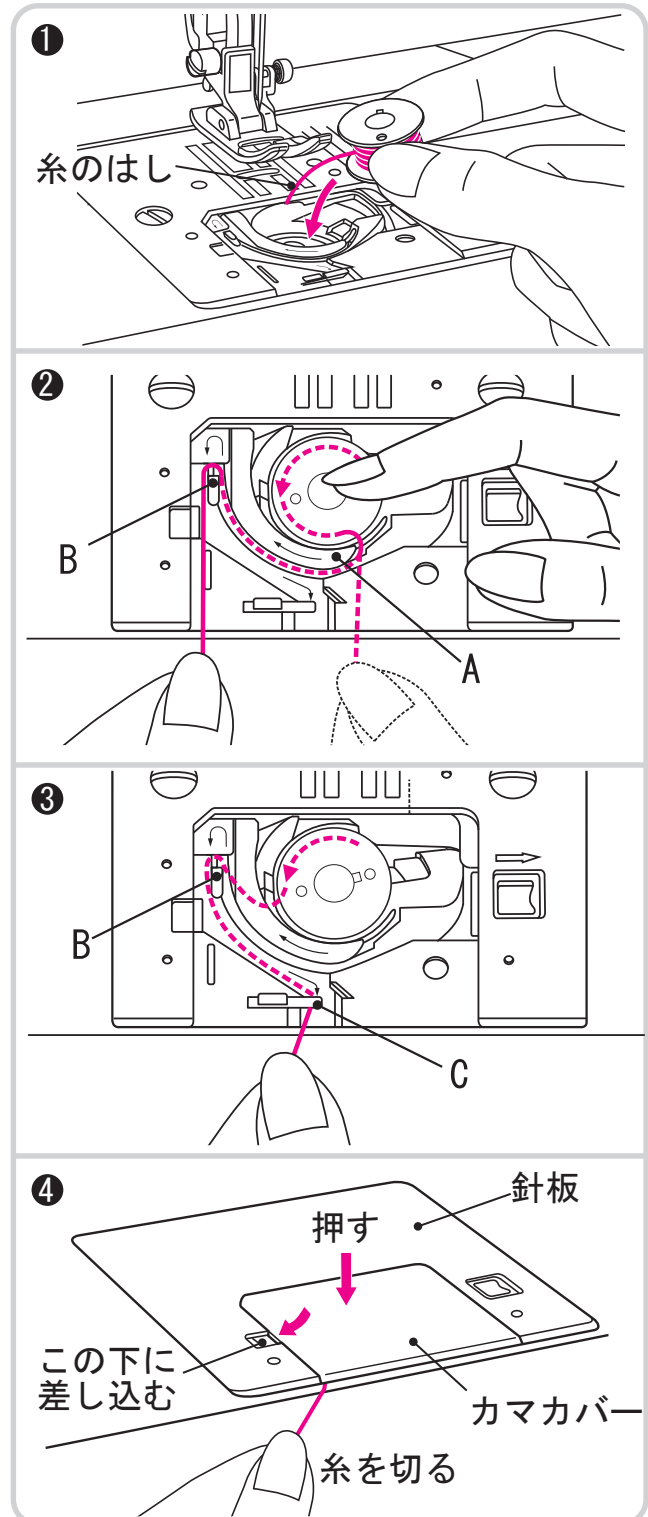
※ 下糸がしっかり入っていない場合、布の上のぬい目がつたように一本線になることがあります。

- ③ 糸を図に示す矢印の通りに (B) の位置にも糸を上から下にギュッと押し込むようにつけた後、(C) の位置まで糸を引き、糸をかけます。糸はしは切らず、カマカバーを取り付けます。

※ 取り付け方法は④参照

- ④ カマカバー左の突起部分を針板の下へ差し込み、右側を押え、カバーを閉じます。カマカバーを固定した後に手前に出ている糸を左に引くと糸が切れ、セット完了です。

- ⑤ 布を置き、押えを下げ、ぬい始めます。(下糸を引き上げる必要はありません。)



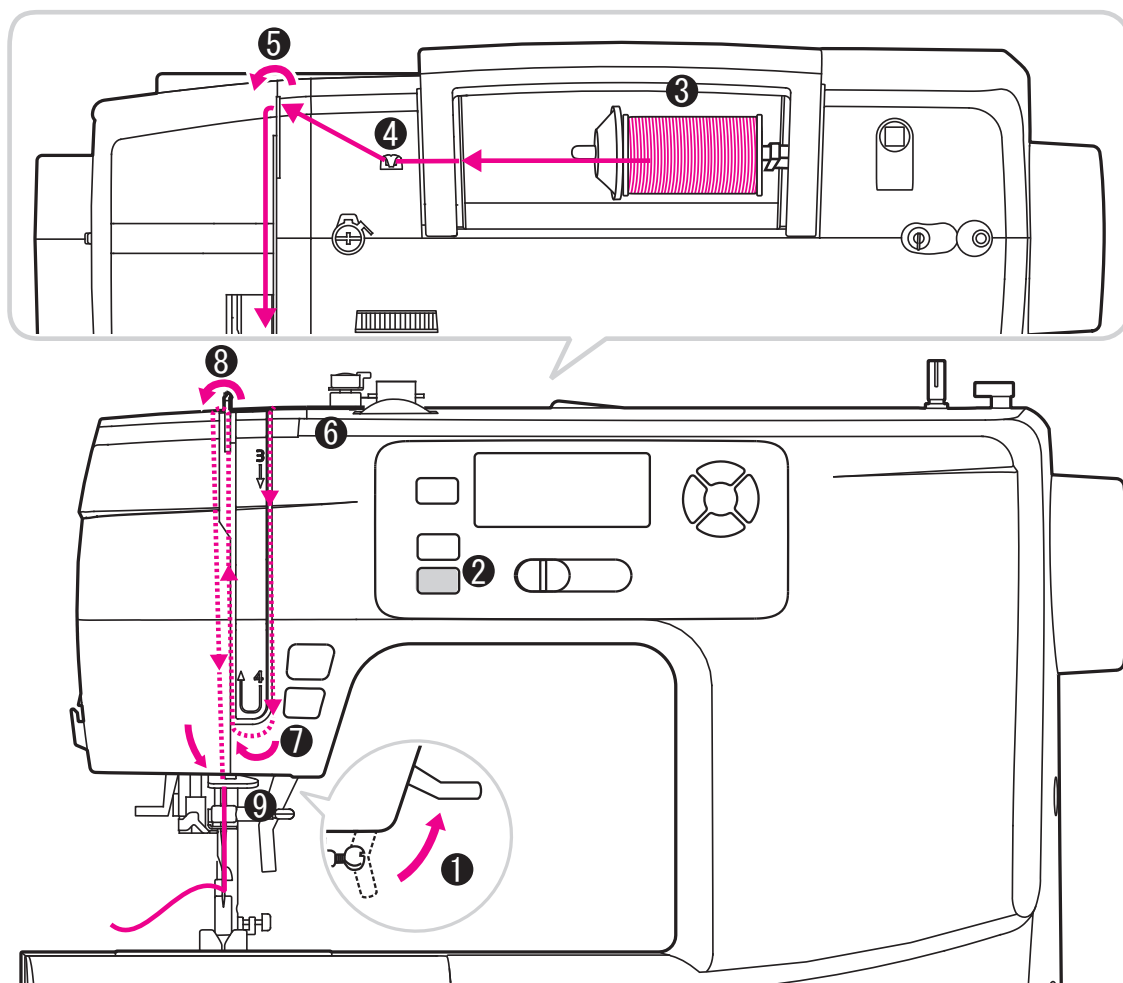
▲ 注意 ケガ防止のために

ミシンを作動する際は必ずカマカバーを閉めてください。

上糸を通しましょう

▲注意 ケガ防止のために

○糸コマの向きや糸コマ押えが正しくセットされていないと、糸立棒に糸がからまり、針折れの原因となります。



● 上糸をかけます

① 押え上げレバーを上に戻します。

必ず押え上げレバーを上げてください。
レバーを上げると、ミシン内部の糸道が開放され、糸が通しやすくなります。

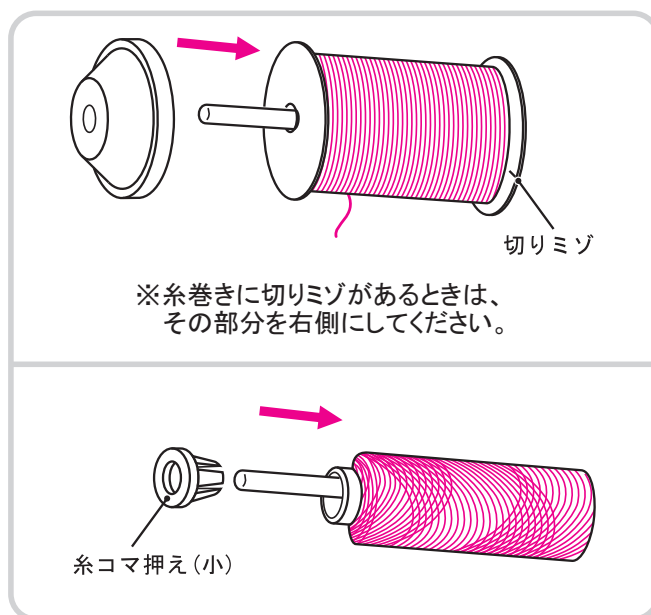
・電源を入れます。

② 針上下ボタンを1回または2回押し、針を上げます。電源スイッチを切ります。

③ 糸立棒を軽く起こし、糸コマを入れ、糸コマ押えで糸コマを押えます。

※小さい糸を使用するときは、糸コマ押えを裏にして取り付けます。糸コマから少し離してセットします。

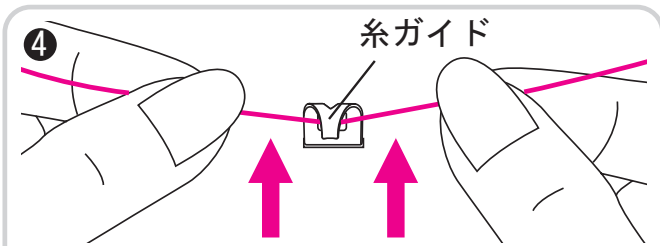
※糸コマが細いときには、糸コマ押え(小)をご使用ください。



上糸を通しましょう

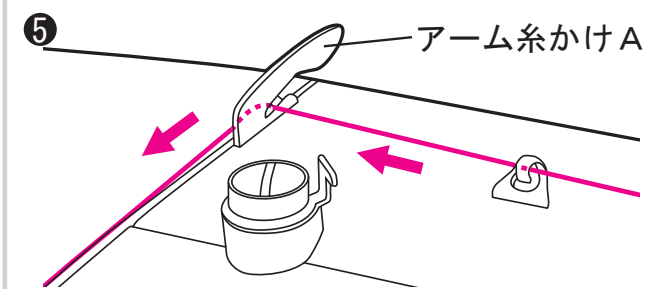
必ず前ページ（①-③）の準備を済ませてから、上糸かけを行ってください。

④糸コマから糸を引き出し、糸ガイドの手前から後ろに糸を通します。



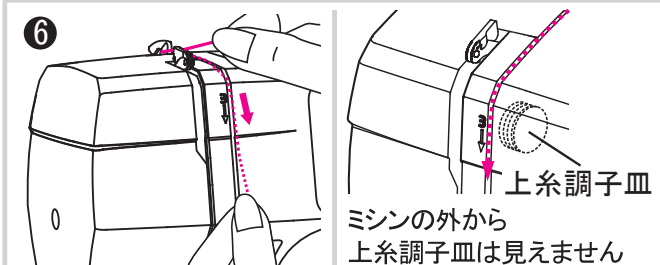
⑤通した糸をさらに引き出し、アーム糸かけAの後ろから糸をかけます。

※下糸巻きの際使用した、糸案内台には糸を絶対にかけないでください。

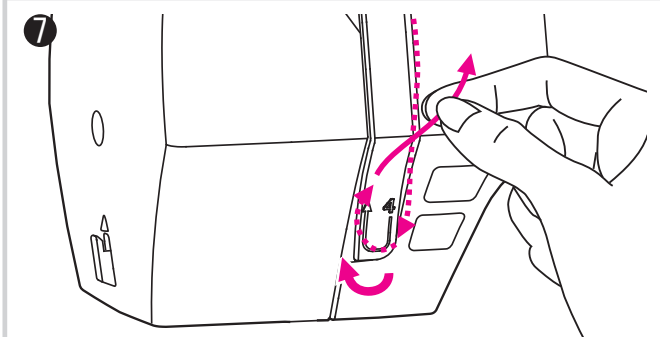


⑥糸を両手で持ち、ピンと張った状態で、ミゾの中にある、上糸調子皿に上から下に糸をキュッと通した後、矢印にそって、手前に糸を引きおろします。

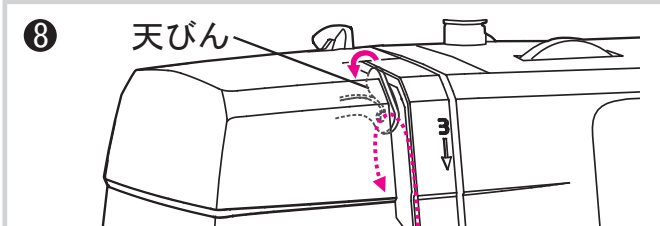
※糸調子皿はミシンの外からは見えません。



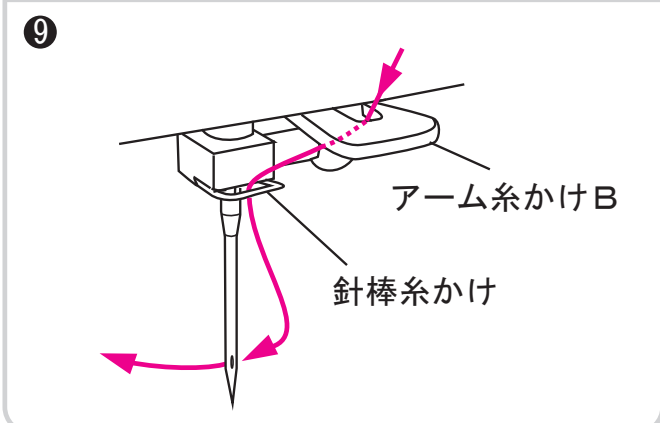
⑦矢印にそって、右から左に糸を引き上げます。



⑧天びんの右側から後ろへ糸を回し左手前に引き、天びんの穴の奥まで糸をかけます。



⑨糸をアーム糸かけBに右奥からかけたら、続いて針棒糸かけにも右奥から糸をかけます。その後、針穴に前から後ろに糸を通します。針穴に糸を通す糸通しレバーの使い方は、次のページをご参照ください。



上糸を通しましょう

▲注意 ケガ防止のために

○糸通し使用中は、はずみ車を手で回さないでください。

○ミシンが動いているときは糸通しレバーに手を触れないでください。糸通しレバーがこわれるだけでなく、針が折れ、ケガの原因となります。

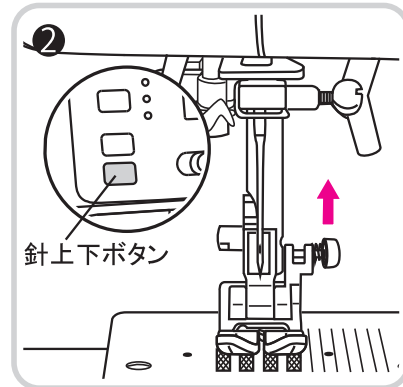
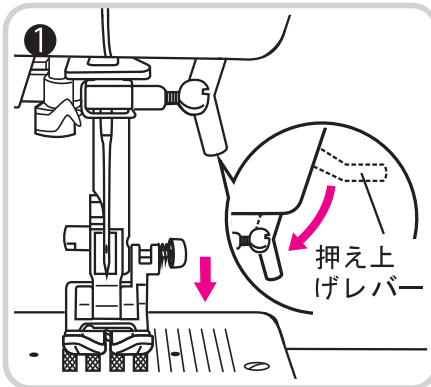
●糸通しの使い方

①押えを下げます。

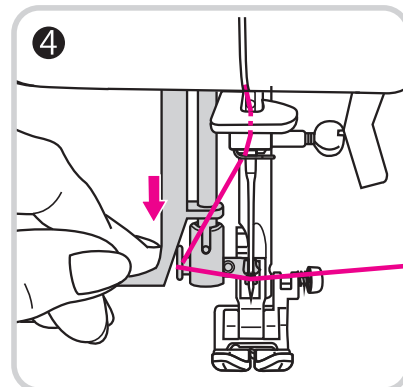
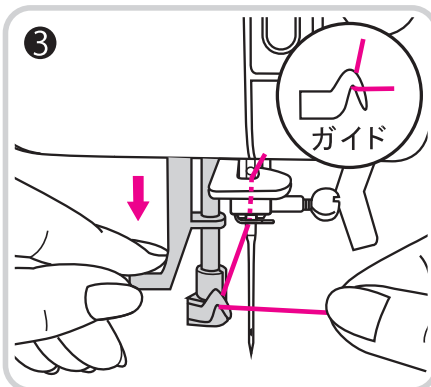
②針上下ボタンで針を上に戻します。

※糸通しが使用できる針は、11番、14番、16番です。

※糸通しレバーは針上下ボタンを押して必ず針が上で停止している状態で使用してください。

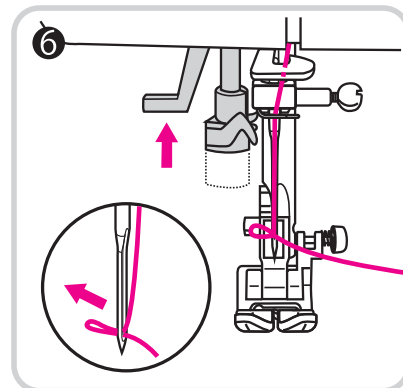
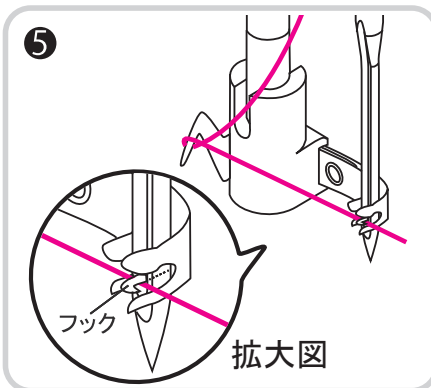


③糸通しレバーを軽く下げ、糸を糸通しのガイドにかけて、右に引いていきます。



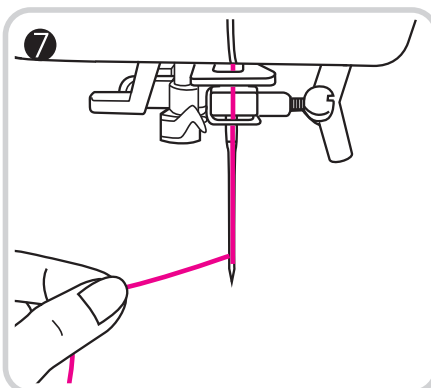
④レバーをいっぱい下げます。糸通しレバーが回転し、フックが針穴に通ります。

※針が正しい位置にないと、レバーが回転しません。必ず②番を行ってください。針穴にフックが通れないまま無理に押し下げると、フックが曲がり針穴に通らなくなることがあります。



⑤フックの下に糸をかけます。

⑥糸を軽く持ってレバーを放します。糸が輪になって、針穴に通ります。フックは元の位置に戻ります。



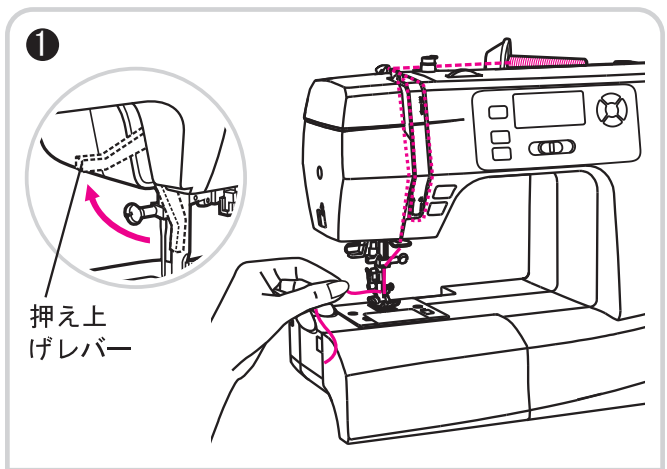
⑦糸はしを針穴から10cmくらい引き出しておきます。これで準備完了です。

用途によって、下糸を引き上げ使用する際は次のように行います

このミシンは、下糸を引き上げなくてもぬうことができますが、下糸を長くにとってぬい始めたいときは、下糸を引き上げておきます。

※下糸セット時の最後の糸切りはしないでください。

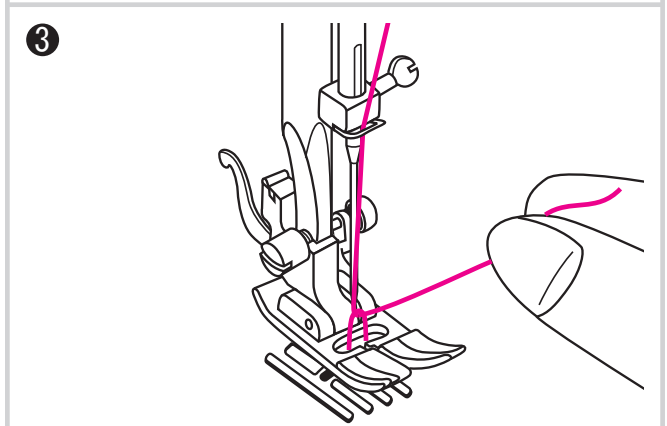
① 押え上げレバーを上へ上げ、針に通した糸を左手で持ちます。



② 針上下ボタンを2回押し、針を上へ上げます。

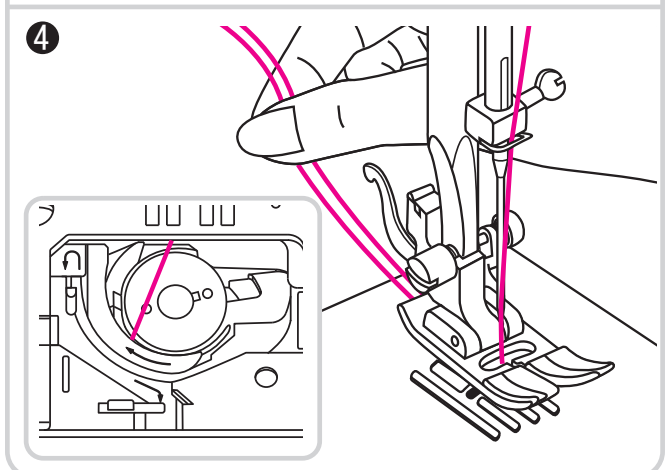


③ 上糸を軽く引き上げると下糸が引き出されます。



④ 上糸と下糸をそろえて押えの下から後ろに10 cmほど出しておきます。

※下糸を引きあげた後、ボビンを上から見ると、左上に1本糸がかかった状態となります。かかっていないと糸調子がとれず、きれいにぬえません。もう一度下糸をセットし直してください。



針を取り替えるには

針は、布地や糸に合わせて選びます。27 ページの「布地に適した針と糸の選び方」を参照して下さい。

▲ 注意 ケガ防止のために

- 曲がった針や先のつぶれた針は、危険ですので、ご使用にならないでください。
- 針は必ず家庭用ミシン針 (HAx1) をご使用ください。

・電源を入れます。

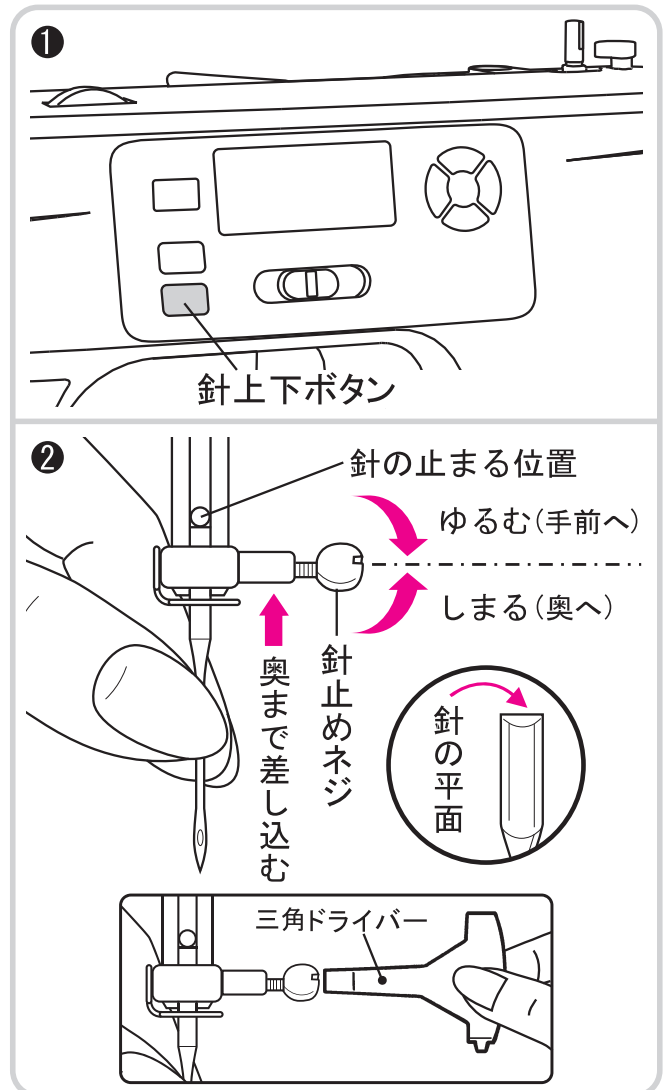
- ①針上下ボタンを1回または2回押し、針を一番上に上げます。

電源を切ります。押え上げレバーを下に下げます。

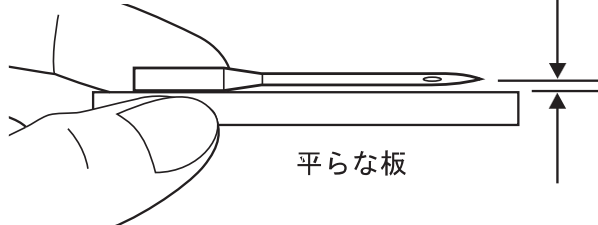
- ②針止めネジを三角ドライバーを使って手前に回しゆるめ、針を下に引き抜きます。

新しい針の裏面（平らな面）を向こう側（押え棒側）に向け、針の止まる位置まで深く差し込んで、針止めネジを三角ドライバーで奥へ回し締めます。

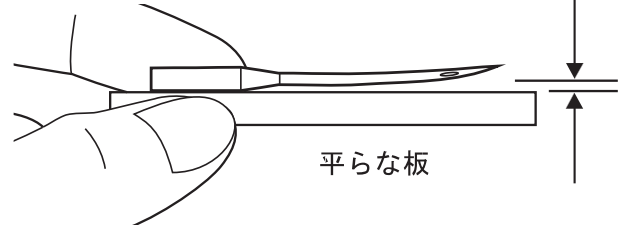
取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。



■ 良い針



■ 悪い針



布地に適した針と糸の選び方

ミシン針は、布地や糸の太さによって使い分けます。この表を目安に、布地にあった針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

※必ずミシン専用の糸をご使用ください。

布地の種類		糸の番号	針の番号
薄地	薄地ジョーゼット、オーガンジー、ボイル、絹布など。	スパン系糸 90 (ポリエステル) 綿 80-100 絹 60-80	9 ~ 11 番
普通地	ギンガム、リンネル、さらさ木綿、サテン、薄手コーデュロイ、別珍、一般服地など。	スパン系糸 60 (ポリエステル) 綿 50-80 絹 50	11 ~ 14 番
厚地	ギャバジン、ツイード、デニム、キルティング、コーデュロイなど。	スパン系糸 60 (ポリエステル) 綿 40-50 絹 50	14 ~ 16 番
伸縮性の布地	ダブルニット、トリコット、スパンデックス、ジャージなど。	スパン系糸 60 (ポリエステル) レジロン系糸 50	11 ~ 14 番 ニット用針

- ・糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
- ・ニット用針は伸縮性のある布地や目飛びしやすい布地に使用します。
- ・購入時は、14 番の針がミシンに取り付けられています。

※綿や絹の糸は、経年劣化により切れやすくなります。

なるべく新しい糸をお使いください。(目安として製造より2年)

※ナイロン透明糸およびメタリック糸、また手ぬい用の糸(キルト糸)などは使用しないでください。

＜オススメ＞

スパン系(素材:ポリエステル)の糸であれば、ほとんどの布地に対応でき、また長持ちします。

押えを取り替えるには

▲注意 ケガ防止のために

○模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たったり、曲がったりして危険です。

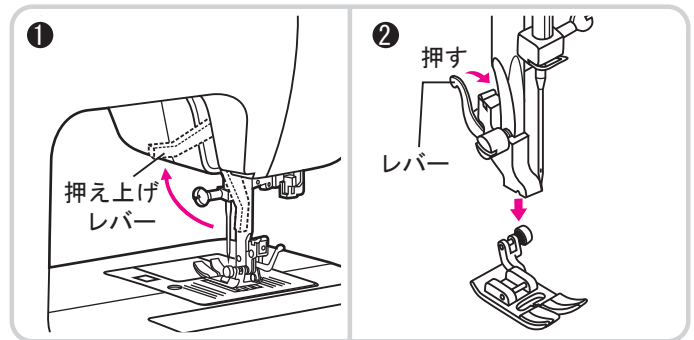
● 押えを取り外します

・電源を入れます。

①針上下ボタンを1回または2回押し、針を上げます。

押え上げレバーを上げます。

②電源を切ります。指先で押えホルダーのレバーを手前へ押しと押えが外れます。



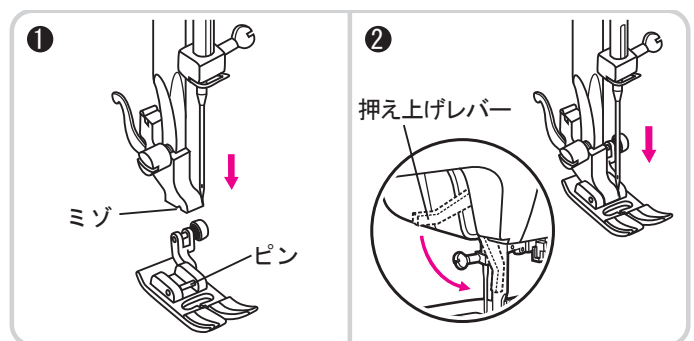
● 押えを取り付けます

①交換したい押えのピンの部分を押えホルダーのミゾの真下におきます。

②静かに押え上げレバーを下げピンをミゾに入れます。

※もし、完全にはまらないときは、押えホルダーのレバー部分を押ししてみてください。

※どの押えも、この要領で取り外し、またセットする事ができます。



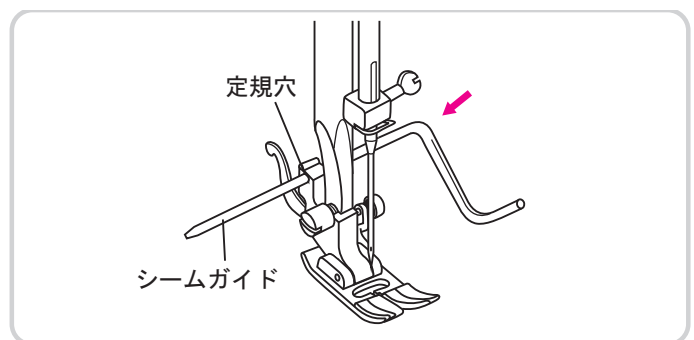
● シームガイドのつけ方

▲注意 ケガ防止のために

シームガイドを取り付けるときは、電源スイッチを切ってください。

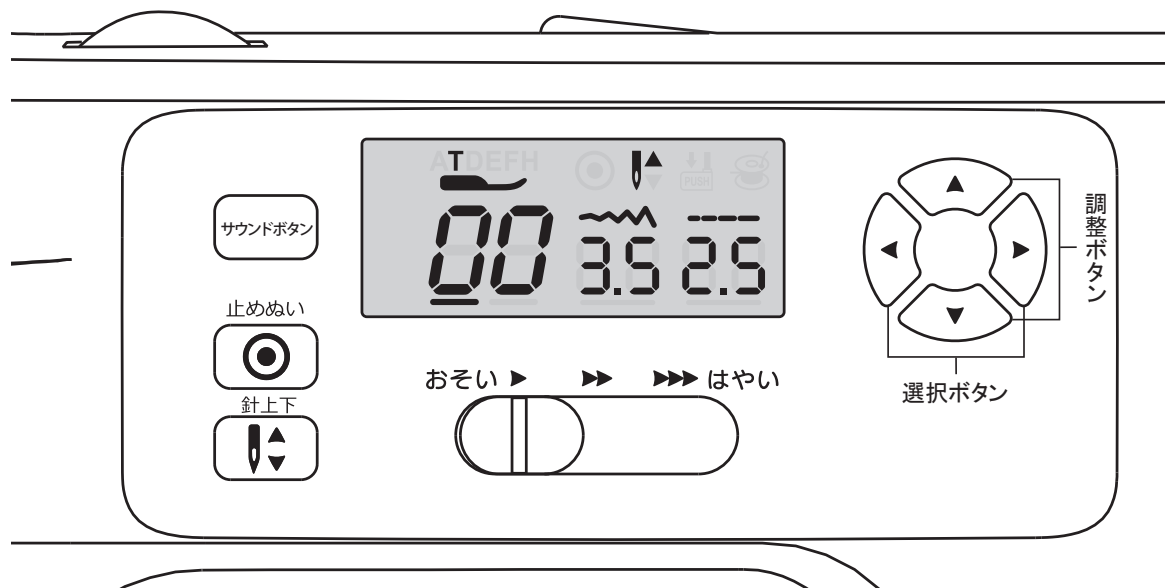
シームガイドは押えホルダーの定規穴に、図のように差し込みます。

※シームガイドは印の線や、前にぬったステッチに平行にぬうときに使うと便利です。



模様を選び方

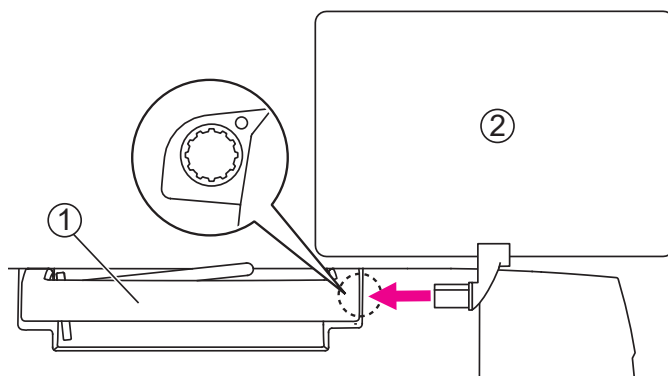
電源を入れると、自動的に直線（中基線）が選ばれます。



ハンドル側面の穴に模様一覧プレートを取り付けます。

- ①ハンドル
- ②模様一覧プレート

模様一覧プレートから縫いたい模様を選んでください。



左右の矢印ボタンを押して画面下部の横線を模様番号の位置に移動します。



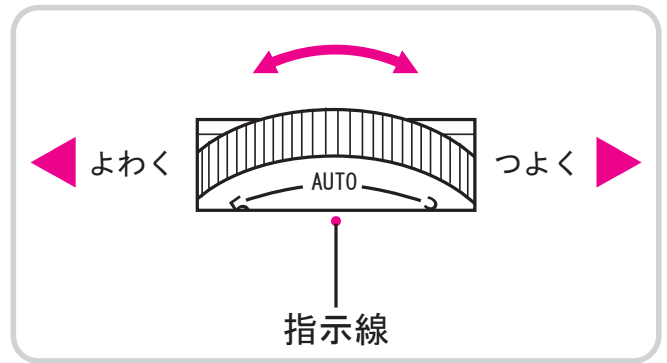
上下の矢印ボタンを押して模様番号を選択します。



糸調子の合わせ方

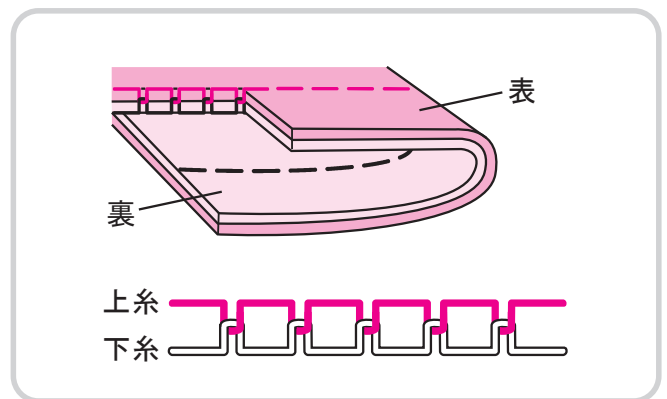
● 上糸調節ダイヤル

通常、上糸調節ダイヤルを「AUTO」に合わせてと普通地使用される糸（#50-60）でぬった場合に、糸調子が合うように設定されています。



● 布・糸がつれている場合

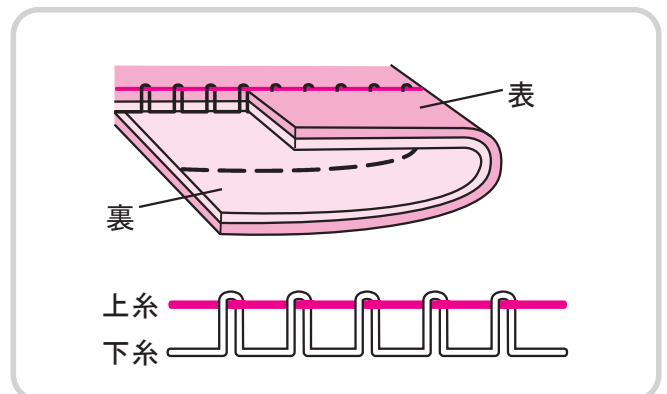
右図のように、上糸と下糸が布の中間で交差し、かつ、布や糸がつれたり、たるんだりしていない状態が正常です。布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合や、ギャザー寄せをするときは、上糸調節ダイヤルを調節して糸調子を合わせてください。



● 上糸が強い場合

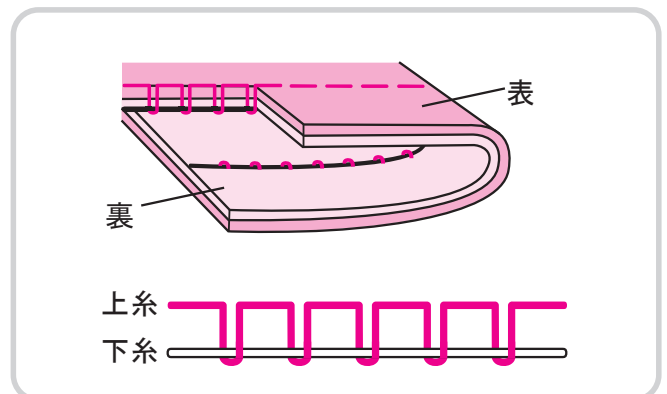
布の表の糸が1本になっているときは、ボビンが正しくセットされていません。正しくセットし直してください。

または、上糸調子が強いので、上糸調節ダイヤルを左の方向（よわく）に回し、ダイヤルの数字を小さくして糸調子を弱くしてください。



● 上糸が弱い場合

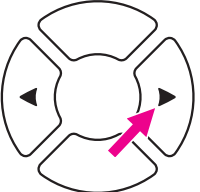
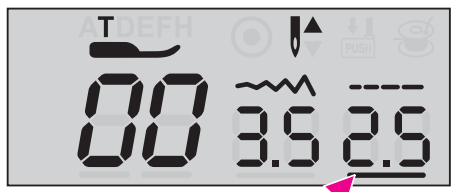
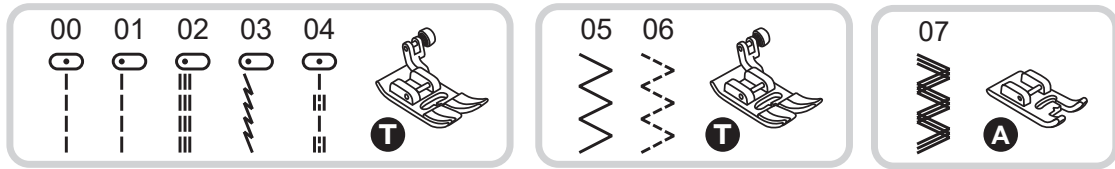
布の裏の糸が1本になっているときは、上糸調子が弱いので、上糸調節ダイヤルを右の方向（つよく）に回し、ダイヤルの数字を大きくして糸調子を強くしてください。



上糸調節ダイヤルの数字を変更しても糸調子が合わない場合には、ボビンのセットの方法が正しくない場合や、上糸をかける際に、押え上げレバーを上げずに糸かけをしてしまったなど、上下糸が正しくセットされていない可能性があります。

18～24ページをご覧ください、再度、上下糸を正しくセットし直してください。

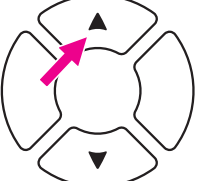
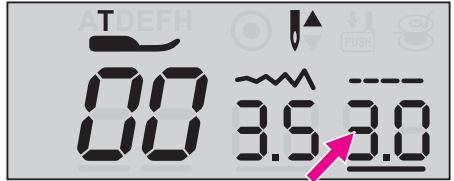
基本ぬい（直線ぬいとジグザグぬい）



● ぬい目の長さを調整

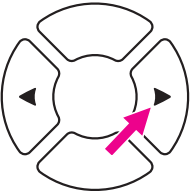
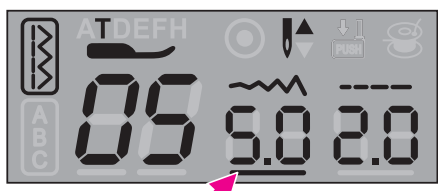
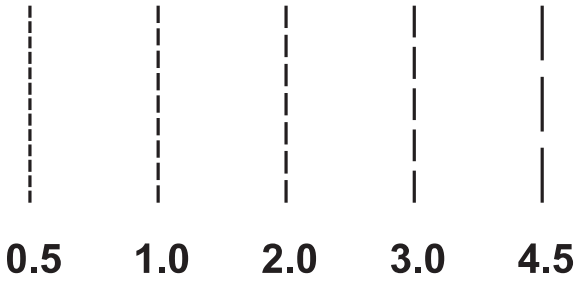
模様選択後、自動的に標準設定値が画面に表示されます。

1. 左右の矢印ボタンを押して画面下部の横線をぬい目の位置に移動します。
2. 「上」ボタンを押すとぬい目を長くできます。「下」ボタンを押すと短くできます。



通常、模様のぬい目調整範囲は「0.0～4.5」です。ただし、模様によってはぬい目の調整範囲に制限があります。

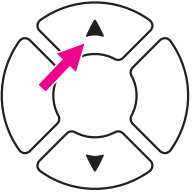
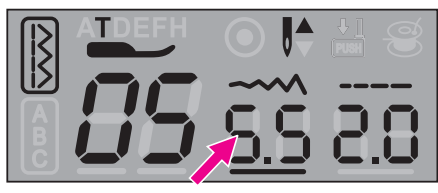
標準設定時は画面表示が点滅します。



● ぬい目の幅を調整

模様選択後、自動的に標準設定値が画面に表示されます。

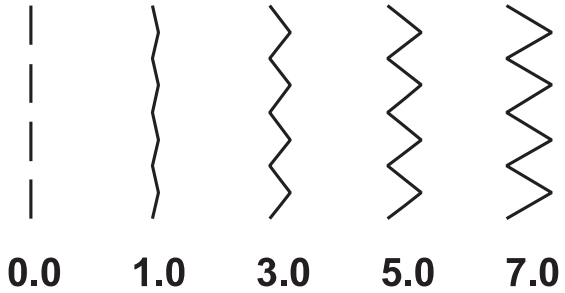
1. 左または右を選択して、画面下部の横線を幅の位置に移動します。
2. 「上」ボタンを押して拡大し、「下」ボタンを押して縮小します。



通常、模様の調整可能な幅は「0.0～7.0」の間です。

ただし、模様によっては、幅の調整範囲に制限があります。

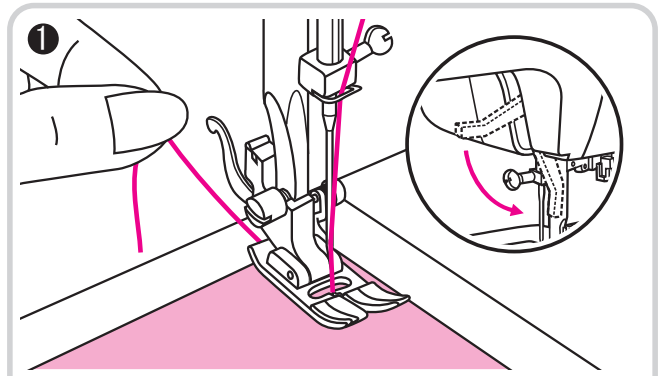
標準設定時は画面表示が点滅します。



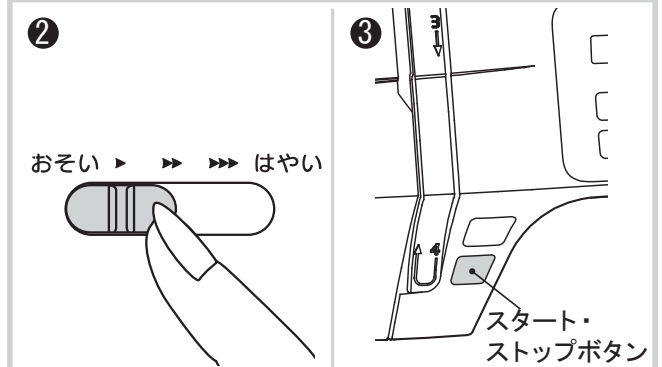
基本ぬい（直線ぬいとジグザグぬい）

● 基本のぬい方

① 布地を押えの下に置き、ぬい始める位置で針上下ボタンを押し、針を刺してから押えを下ろします。

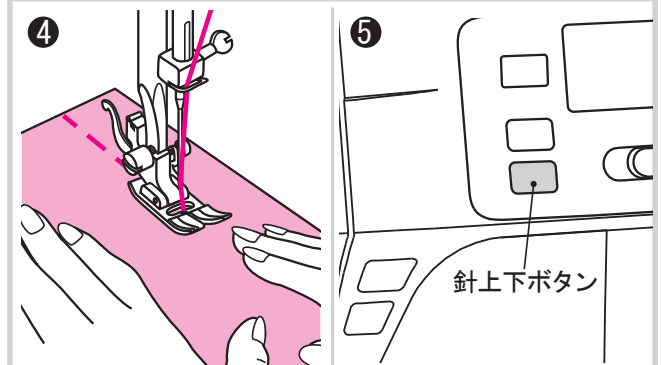


② ぬい速度を設定します。



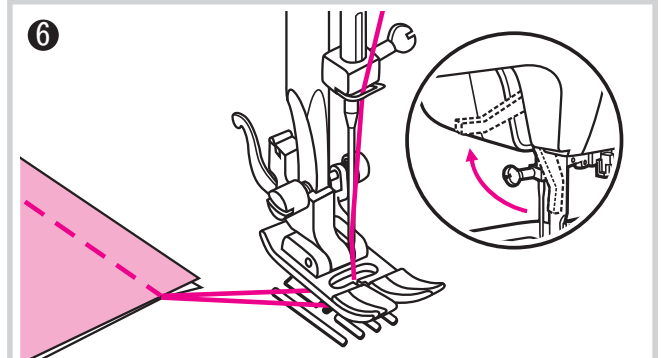
③ スタート・ストップボタンを押してスタートします。

④ 布地に軽く手をそえます。
ぬっている間は布地を無理に引っ張らないようにします。

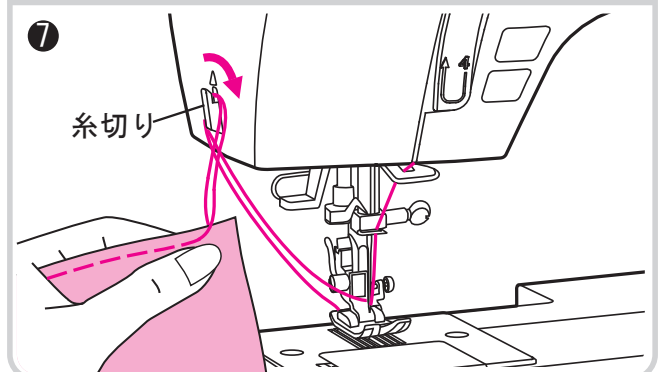


⑤ スタート・ストップを押してストップします。
針上下ボタンを押し、針を上げます。

⑥ 押えを上げ、布地を後ろへ引いて取り出します。



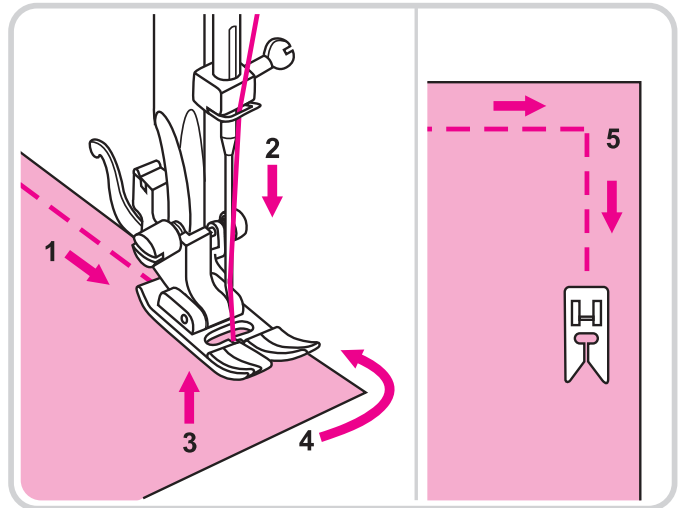
⑦ 糸切りに糸をかけて手前に引くと、糸が切れます。



基本ぬい

● ぬい方向をかえるには

- ① 布地の角まで来たら、ストップします。
- ② 針上下ボタンを押し、針を下げ、布に刺します。
- ③ 押えを上げます。
- ④ 針に刺したまま布地を回し、ぬい方向にセットします。
- ⑤ 押えを下げて、ぬい始めます。



● 返しぬい

ぬい始めやぬい終わりに、3～5針返しぬいをしておくと、ぬい目がほつれず、丈夫になります。

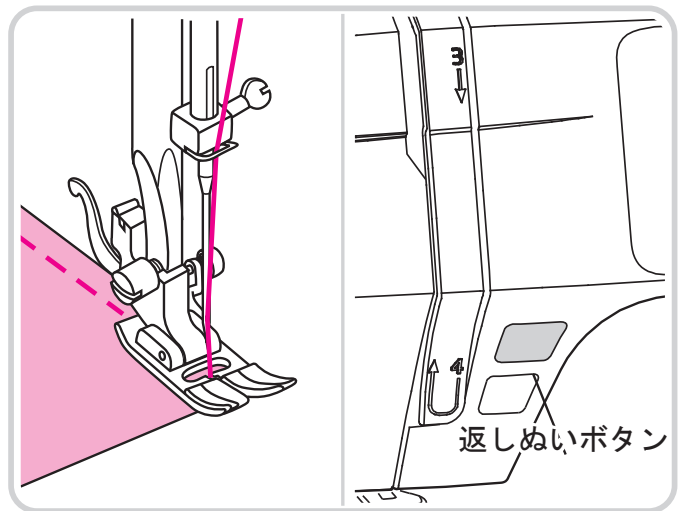
[ぬい始め]

- ① ミシンが停止状態で返しぬいボタンを押すと、押している間は返しぬいをし、手を放すとミシンは停止します。
ぬい始めからほつれ止めを行う場合、布はしから3～5針分手前に針を刺します。

[ぬい終わり]

- ① 裁縫中にボタンを押している間返しぬいになり、放すと前進ぬいになります。
- ② 布はしでスタート・ストップボタンを押して停止します。

※ボタンホール 20～28 の模様では使用できません。



● 止めぬい ※ 11 ページ参照

[ぬい始め]

- ◎ 模様 00～19 のとき
止めぬいボタンを押すと、3針止めぬいをして止まります。
- ◎ 模様 29～99 のとき
止めぬいボタンを押すと、3針止めぬいをして止まります。

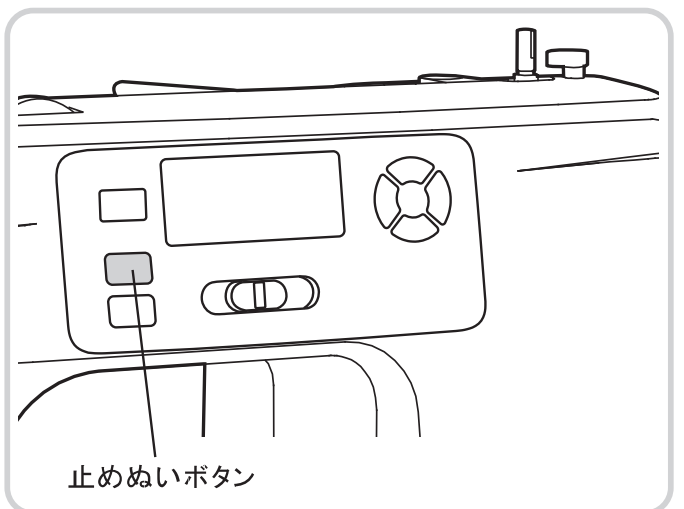
[ぬい終わり]

- ◎ 模様 00～19 のとき
止めぬいボタンを押すと、3針止めぬいをして止まります。

※模様完結止めぬい

- ◎ 模様 29～99 のとき
止めぬいボタンを押すと、模様の完了するところで止めぬいをして止まります。

※ボタンホール等の 20～28 の模様では、使用できません。



基本ぬい（直線ぬいとジグザグぬい）

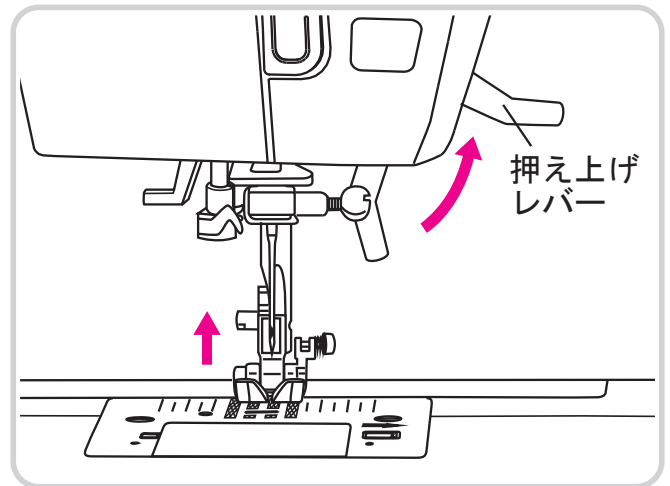
● 厚地のぬい方

・厚い布を入れるとき

布を何枚か重ねてぬうときや、厚い布地をぬうとき、これらの布を押えの下に入れやすくするため、押えをさらに上にあげることができます。

※この時レバーは固定されません。

手を放すとレバーは普通に上げた位置に戻ります。

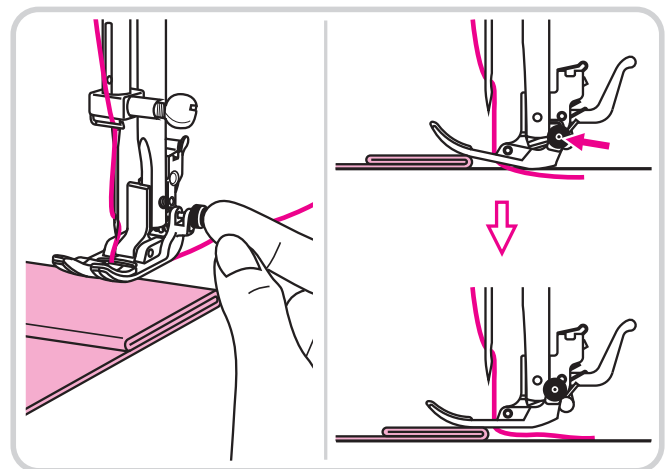


・厚地の布はしのぬい始め

ぬい始めの位置に針を刺し、基本押えの右側にある黒ボタンを押し込みます。

ボタンを押したままで、押えを下げます。

押えが水平なことを確認したら、ボタンから手を放し、ぬい始めます。

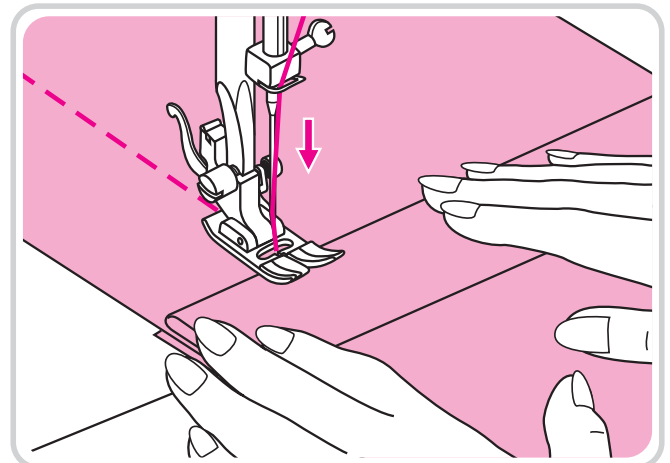


● 段ぬい

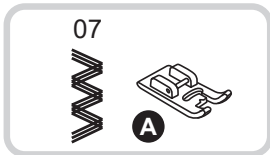
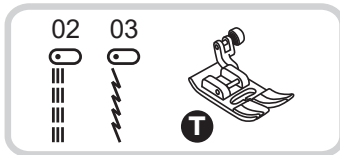
布地が重なって、急に厚くなった部分は針を布に刺し、押えを上げ、基本押えの黒ボタンを押し込みます。

ボタンを押したまま押えを下げ、押えが水平なことを確認してから、ボタンから手を放し、再びぬい始めます。

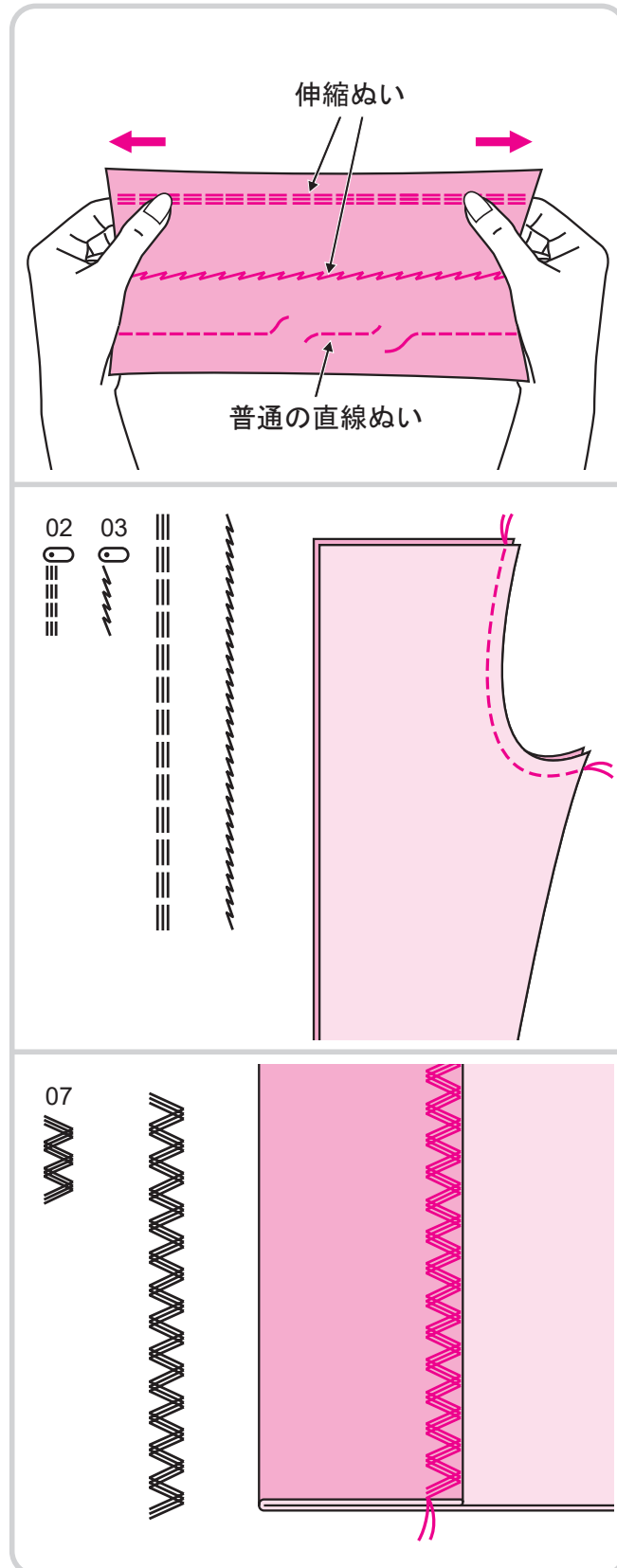
段ぬいが終わると、自動でボタンは解除されます。



伸縮ぬい



このぬい目は伸縮性があるので、ニットやジャージなどの伸縮性のある布地のぬいに適しています。



・伸縮強化ぬい 02

直線の三重ぬいです。丈夫で伸縮性のあるぬい目なので、力がかかってほつれやすい部分やデニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。

・伸縮直線ぬい 03

伸び縮みがきき、布地を伸ばしても糸が切れません。ぬい方は、直線ぬいと同じです。

・三重ジグザグぬい 07

ジグザグの三重ぬいです。こちらも伸縮性のある布地のぬい合わせに最適です。

飾りぬいとして使用する場合は、必ずサテン押え(A)に付け替えて使用してください。

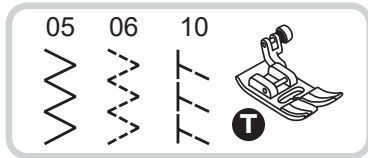
裁ち目かがり

裁断した布はしがほつれないように縁かがりをします。

⚠ 注意 ケガ防止のために

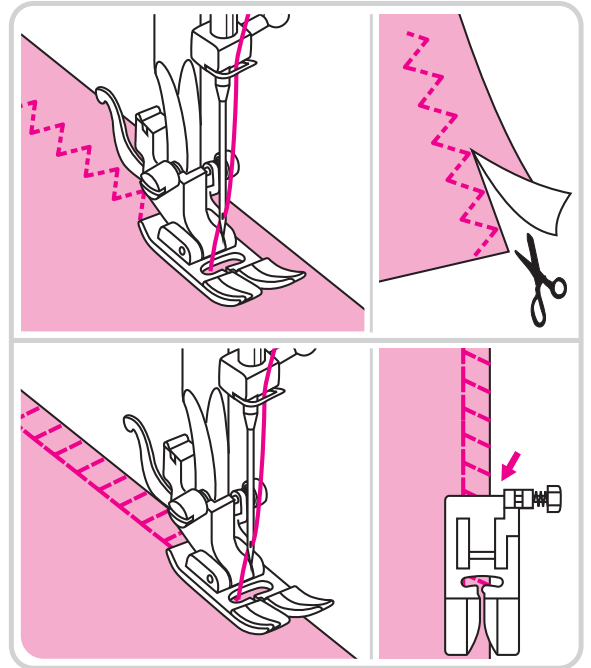
- 押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- 縁かがり押えを使用するときは、ふり幅を“5.0”より小さくしないでください。針が押えに当たり、針が折れるなどして危険です。

● ジグザグ押えを使用するとき

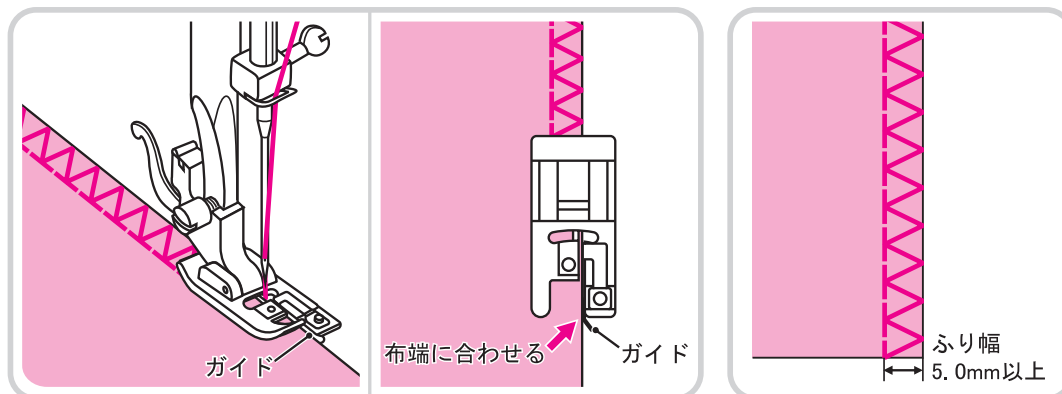
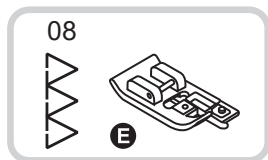


模様 05 は、ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布はしの反り防止などに使用します。

模様 10 は、ニット地用のかがりぬいに使用します。ニット地のかがりぬいは、ぬい代を少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。



● 縁かがり押えを使用するとき



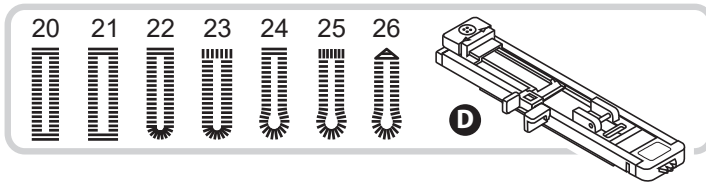
布はしをガイドに合わせてぬいます。糸調子は弱めで、上下糸が糸はしで交差するように調整しましょう。

※縁かがり押えを使用するときはふり幅を 5.0mm 以下でぬわないでください。

ぬう前に必ず、押えの金具に針が当たらないことを確認してください。

ボタンホール

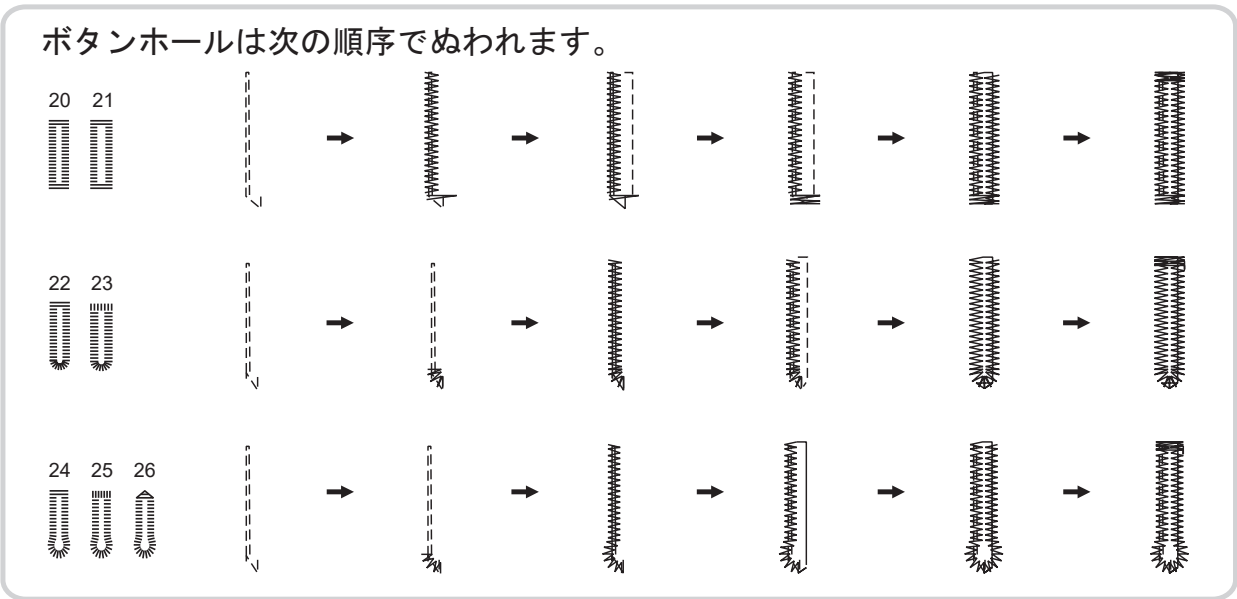
ボタンホールは次の7つの模様から選びます。



- ||| 薄地、普通地（シャツ）などに。
- ||| 薄手のワイシャツ、中厚地向けに。
- ||| 薄地、普通地の横向きのボタンホールを作るときに。
- ||| 厚地の横向きのボタンホールを作るときに。
- ||| 中厚地（ベストやジャケット）などに。
- ||| 厚地のコートに。
- ||| ジーンズやズボンに。

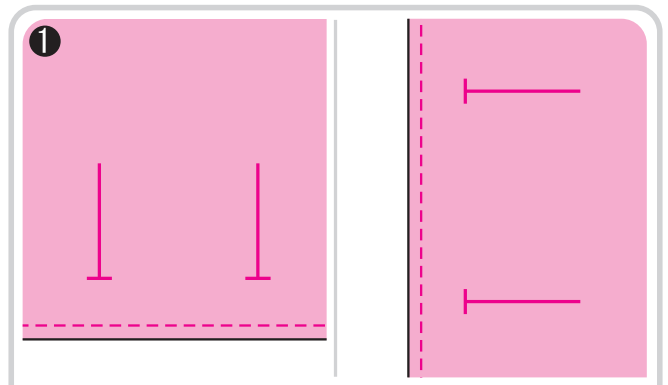
⚠ 注意 ケガ防止のために
 押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

「ボタンの直径+厚み」3 cm までのボタンホールができます。
 ぬうときは、必ずぬうものと同じ布地（残り布）で試しぬいを行ってからぬってください。

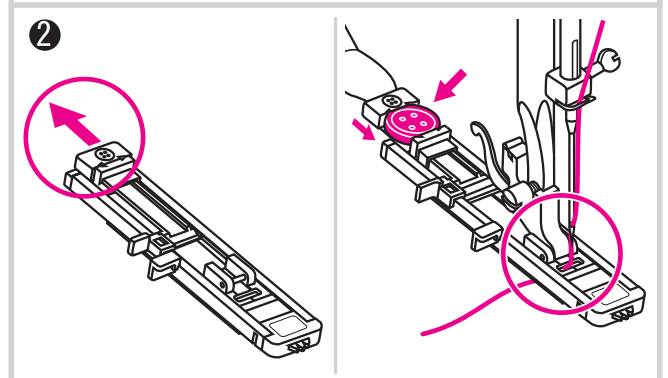


ボタンホール

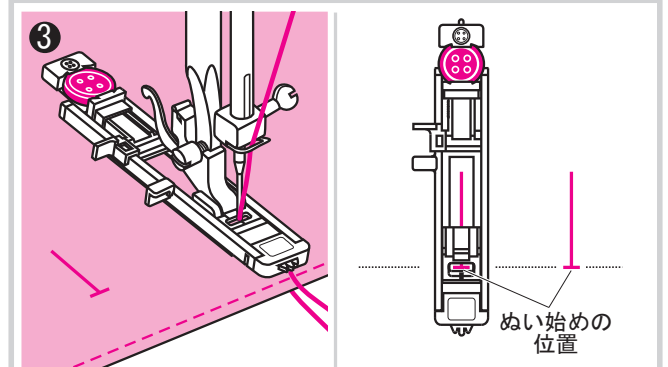
①ボタンホールをする位置にチャコペンなどで印をつけます。



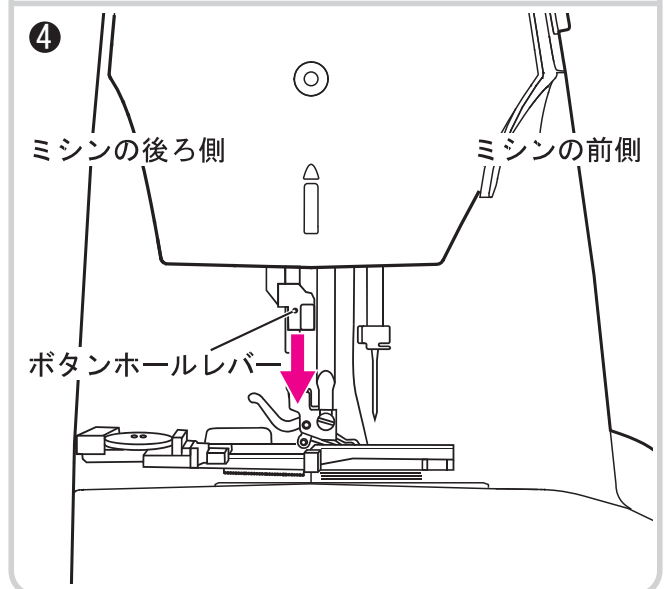
②ボタンホール押え (D) の後ろを引き、開いた部分にボタンを乗せ、はさみます。
通常ついている押えを取り外します。ボタンホール押えの針穴部分に糸を通し、ボタンホール押えを取り付けます。



③押えを上げます。
布を入れ、ぬい始めの位置に針を刺して、押えを下げてください。
糸は押えの下に通し、手前に出しておいてください。

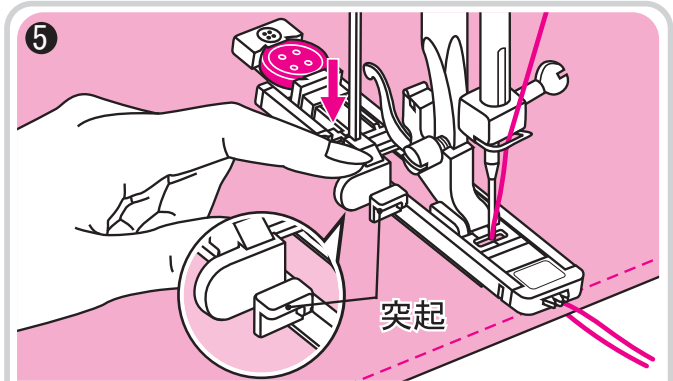


④ミシンの後ろ側にある、ボタンホールレバーを下に引き、完全に止まるまで下げます。

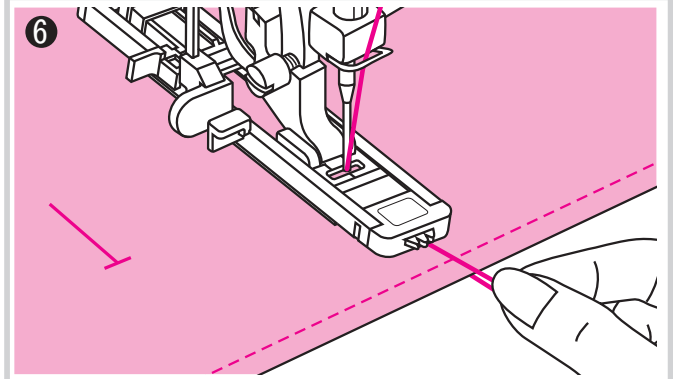


ボタンホール

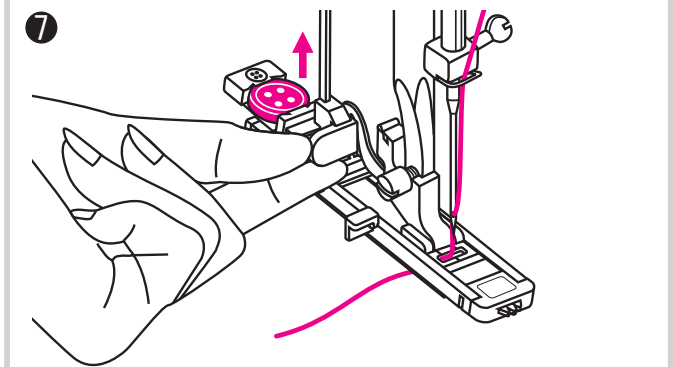
⑤ ボタンホールのレバーは、必ず、ボタンホール押えの左側にある突起部の後ろ側に降りるように、セットしてください。



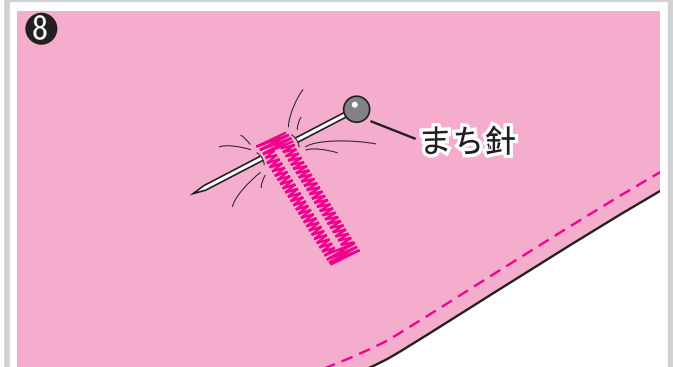
⑥ 上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。
※糸は引っ張らないようにしてください。ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。



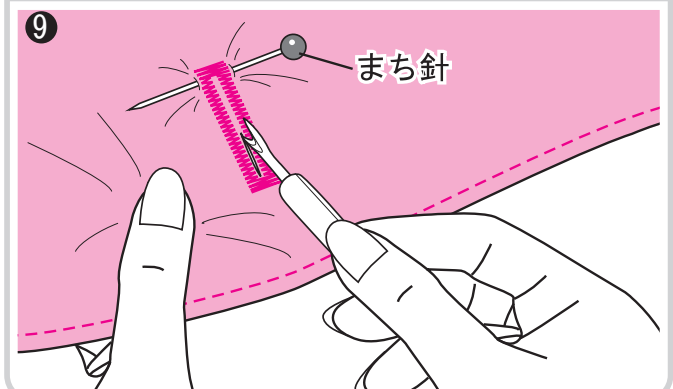
⑦ 押えを上げて生地を取り出し、糸を切ります。
ボタンホールレバーを引き上げて、元の位置に戻します。



⑧ ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内部にまち針を刺します。
※まち針は付属品ではありません。



⑨ 付属のリッパーでボタンホールを切り開きます。



⚠ 注意 ケガ防止のために

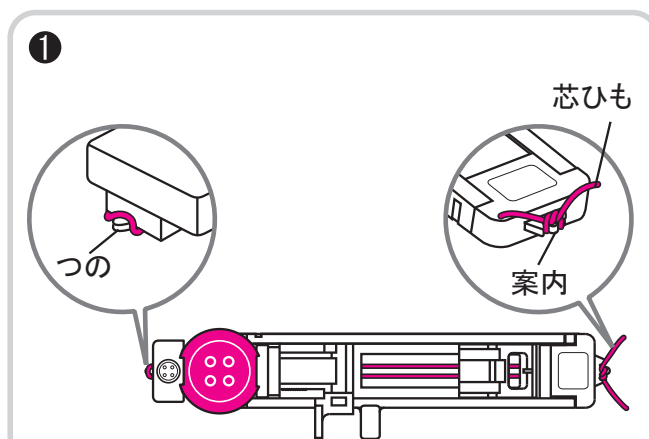
リッパーで穴を開けるときの、リッパーの先端に手や指を置かないでください。すべったときにケガをするおそれがあります。

ボタンホール

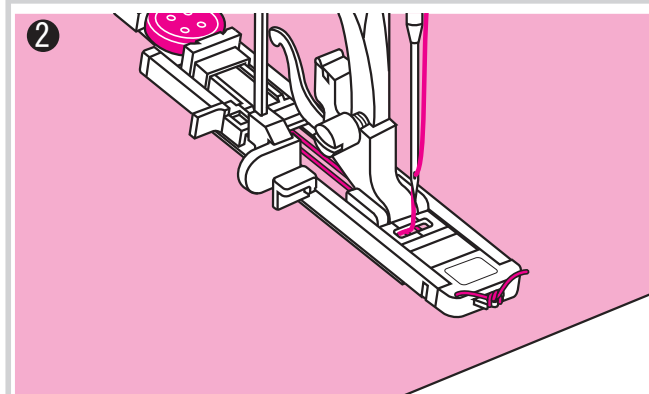
● 芯入りボタンホール

伸びる布地にボタンホールをぬうときは、ボタンホールに芯ひもを入れてください。

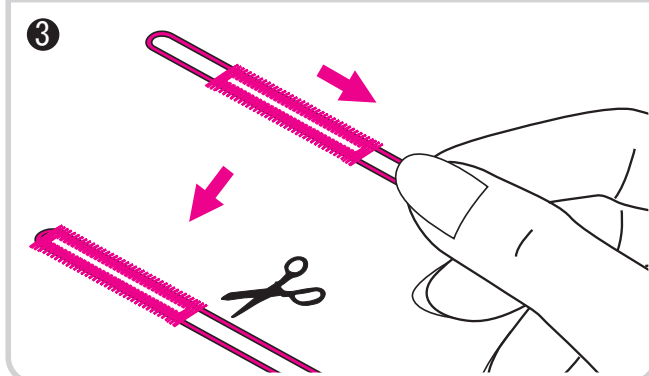
① 芯ひもの輪を押えの後ろ側にあるつのにかけ、押えの下から手前に平行になるように引き出し、前側の案内にはさみます。



② 通常のボタンホールと同じようにぬいます。

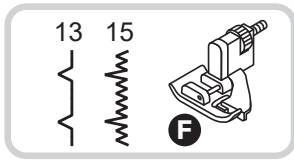


③ 左側の芯ひもを引いて、たるみを無くし余分な糸を切ります。



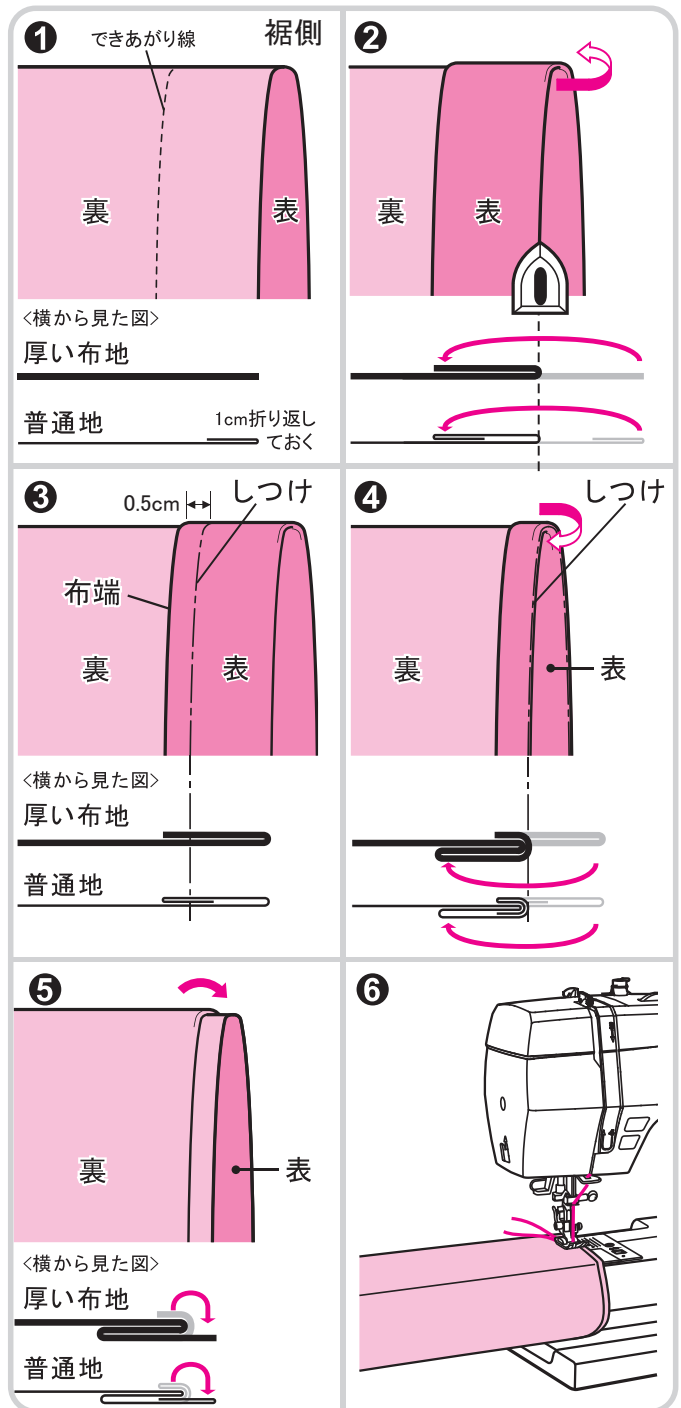
まつりぬい

布地の表面に目立たないぬい目をつくるぬい方です。
ズボンやスカートの裾、袖口の裁縫に用います。お子さまの服のたけ直しなどにも
ぜひご利用ください。



▲注意 ケガ防止のために
押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

- ①裾上げするスカートやズボンを裏返します。
- ②できあがり線で布を折り返し、アイロンをかけます。
- ③布はしから約0.5cmのところにチャコペンで印をつけ、しつけをします。
- ④しつけをしたところから、内側へ折り込みます。
- ⑤布はしを開きます。
- ⑥ミシンをフリーアームにして、アームに布地を入れ、布地を回すことができるのを確認します。(8ページ参照)



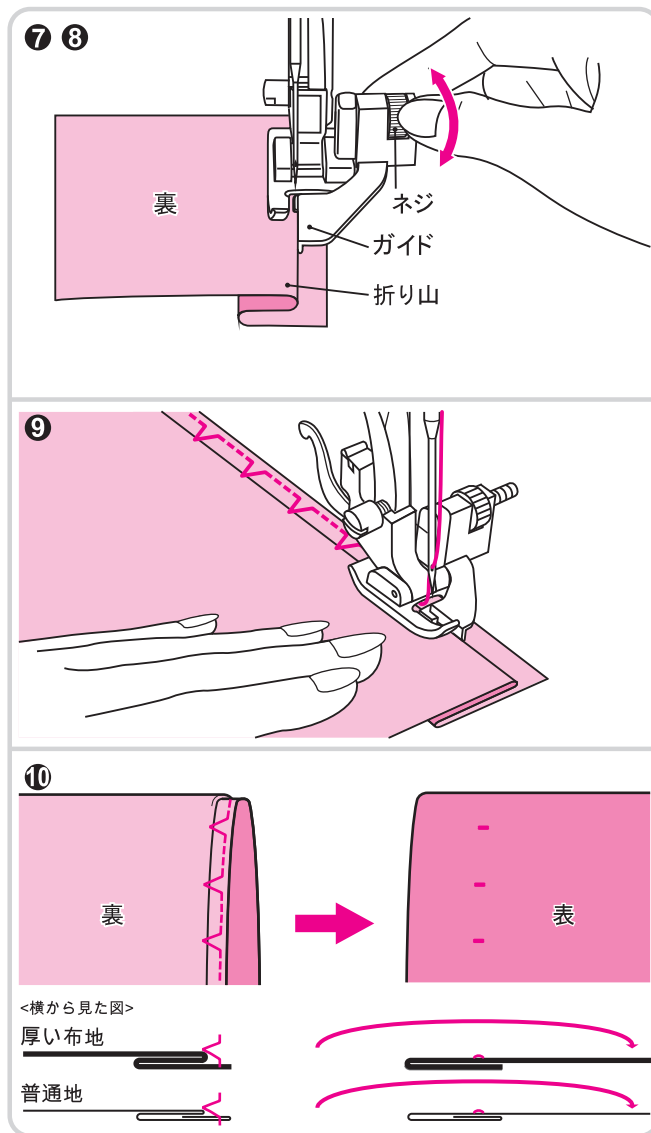
まつりぬい

⑦左の針落ちがわずかに折り山にかかるよう、布地をセットします。

⑧折り山に押えのガイドを合わせて、押えを下げます。ブラインドステッチ押え（F）のネジを回して、折り山に押えのガイドがピッタリとあたるよう調節してください。

⑨折り山が押えのガイドにあたるように、生地を手を添えながらぬいます。

⑩しつけをほどこき、布地を表に戻します。



ファスナー付け

ファスナーは機能的なうえ、装飾にもなります。



⚠️ 注意 ケガ防止のために

- 押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- ファスナー押えは、必ず直線 00 だけにお使いください。ほかの模様を使用すると、針が押えに当たって折れ危険です。

ファスナーの付け方には「つきあわせ」と「脇あき」の方法があります。

● つきあわせ

① 中表にして布を合わせ、図の様にあき止まりまで地ぬいをします。

あき部分はしつけをします。

※ 数値はあくまでも目安であり、布の厚さや作品により変わります。

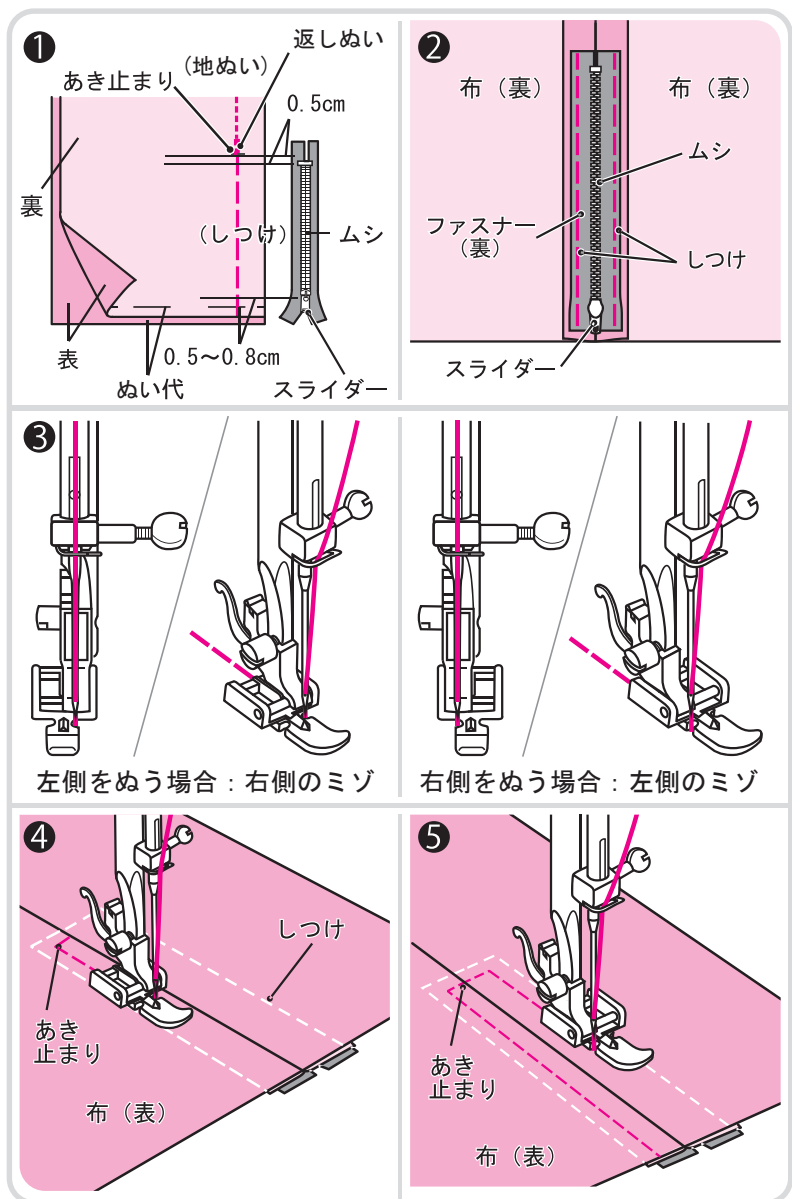
② ぬい代をわり、ぬい目にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけをします。しつけはほどきやすいよう粗めでぬいます。

③ ファスナー押え (I) を取り付けます。ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のミゾを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のミゾをホルダーに入れます。

④ ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。布の合わせ目から 0.7~1.0cm 離してぬいます。

⑤ あき止まりと右側をぬい、しつけをとります。

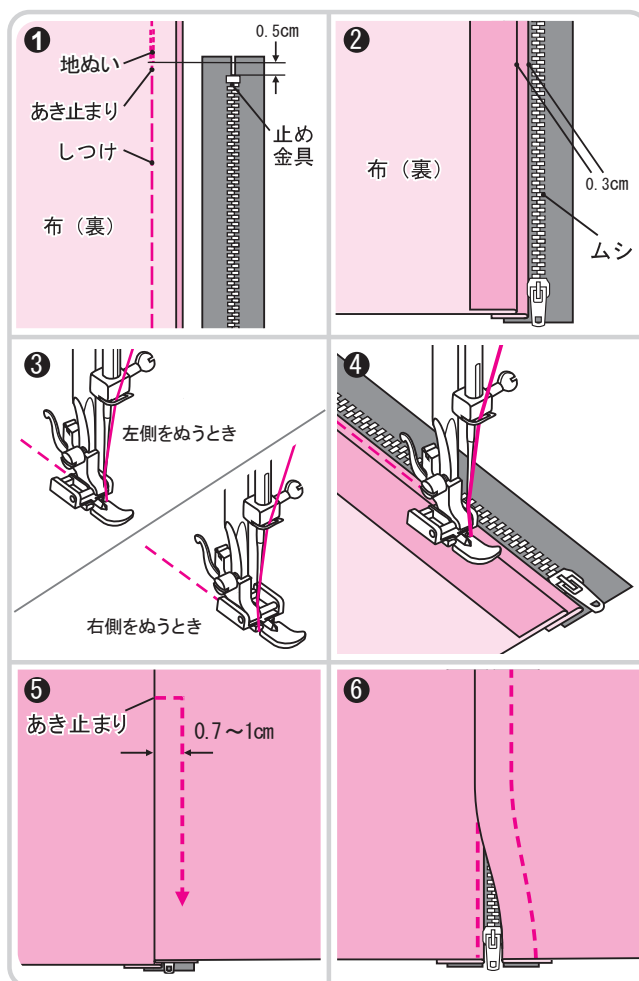
右側も同様に、0.7~1cm 離してぬいます。



ファスナー付け

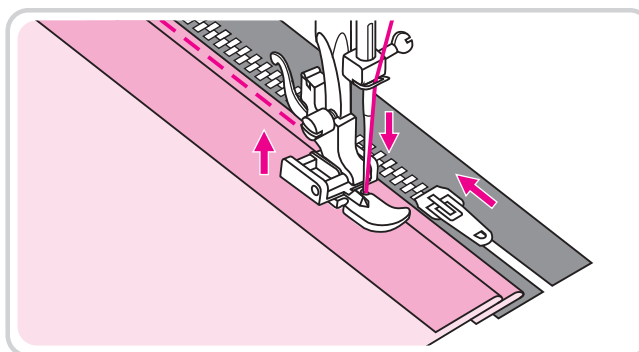
● 脇あき

- ① 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。
あき部分はしつけをします。
- ② ぬい代をわり、下の布のぬい代を 0.3 cm 出して折り目をつけ、折り山をムシに合わせます。
- ③ ファスナー押え (I) を取り付けます。
ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のミゾを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のミゾをホルダーに入れます。
- ④ ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。
押えがファスナーのムシに乗らないようにしてぬいます。
- ⑤ 上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。
右側は布の折り目から 0.7 ~ 1cm 離してぬいます。
- ⑥ スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。

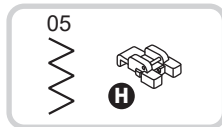


● スライダーをよけてぬうには

1. スライダーの手前でミシンを止めます。
2. 針を下げて布に刺します。
3. 押えを上げて、スライダーを向こう側に下します。
4. 押えを下げてぬい続けます。



ボタン付け



①ドロップフィードレバーで送り歯を下げます。
(12 ページ参照)

②布地のボタンを付けたい位置にボタンを置き、
左右の穴が真横になるようにして押えを下げます。

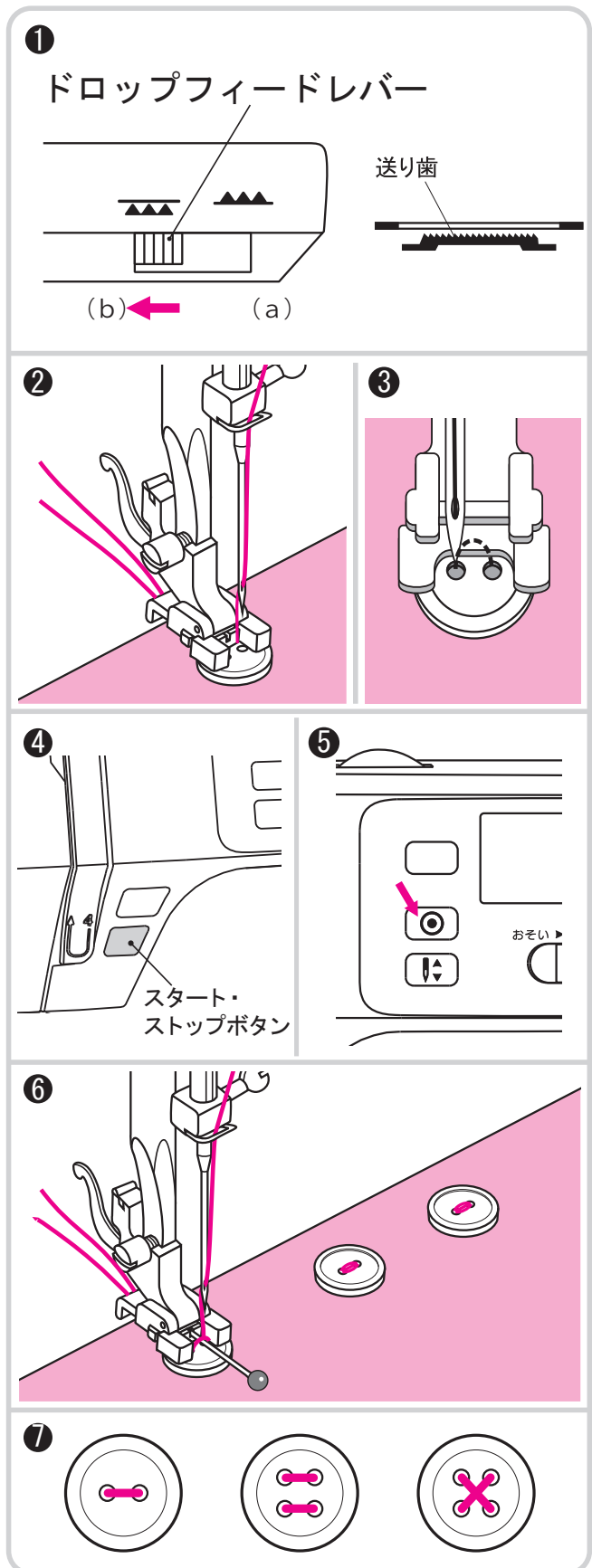
③ボタンの穴の幅に合うように、ふり幅を調整し
ます。はずみ車を回して、針が左右の穴に下り
ることを確かめます。
※はずみ車を手前に回して、針が左にきたとき
ボタンの左の穴の中央に降りるようにしてお
きます。

④スタート・ストップボタンを押してぬい始めま
す。

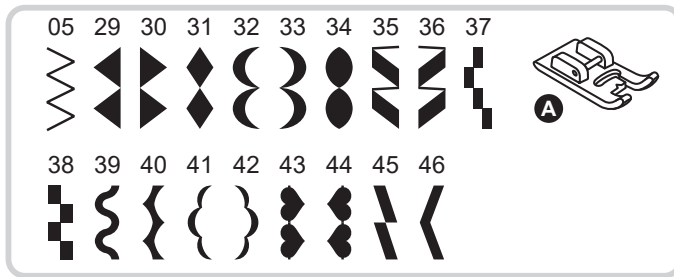
⑤数回ぬってから、止めぬいボタンを押します。
止めぬいをしてから自動的に止まります。

⑥付けるボタンに余裕をもたせたいときは、ボタ
ンの上にまち針を乗せてぬいます。
※まち針は付属品ではありません。

⑦4つの穴を持ったボタンについては、先に2つ
の穴をぬい、それから残りの2つの穴をぬいま
す。
※ボタン付けが終わったら、必ずドロップフィ
ードレバーを (a) の方向に戻し、はずみ車を
手前に回して、送り歯を上げておきましょ
う。



サテン模様



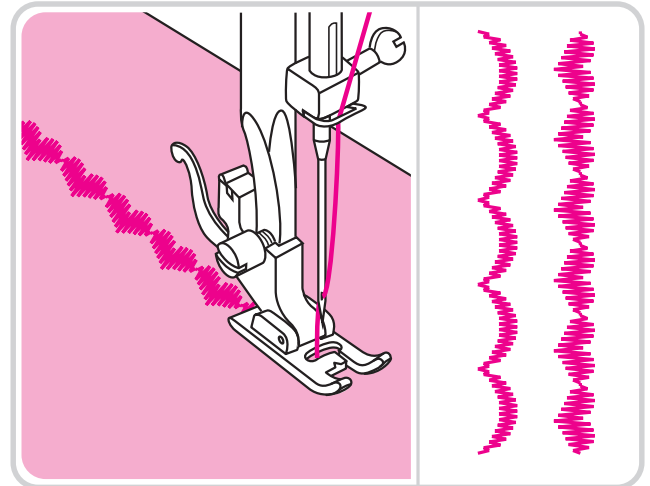
模様を連続してぬうことにより、装飾的な効果を得ることができます。

サテン押え（A）を取り付けます。

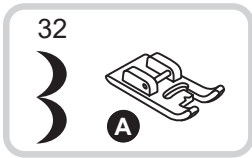
希望する飾りぬいをするために、ぬい目の長さやふり幅を、それぞれのボタンを使用して調節することができます。

ぬいたい布の切れはしを利用して、ぬいたい模様の希望した長さや幅が得られるまで、試しぬいをしてください。

薄い布地をぬう場合、布地の下に薄い紙を敷いて、布地と一緒にぬうとよいでしょう。ぬい終わったら、紙を破いて取り除きます。

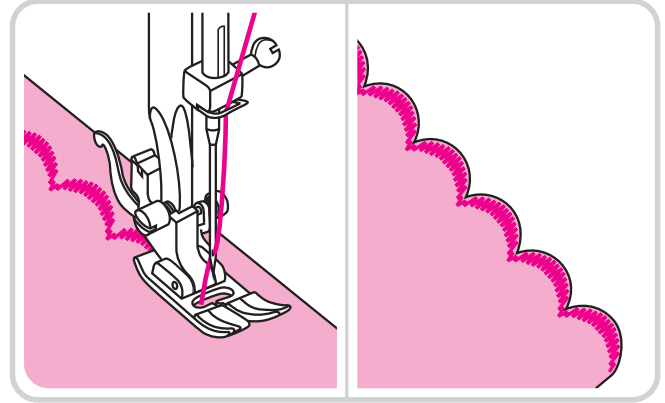


スカラップ

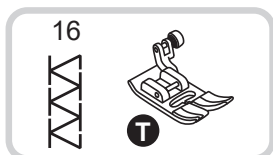


布を表から布はしを 1 cm くらい残してぬいます。

糸を切らないように、外側の布をぬい目にそって切り落とします。



ファゴティング

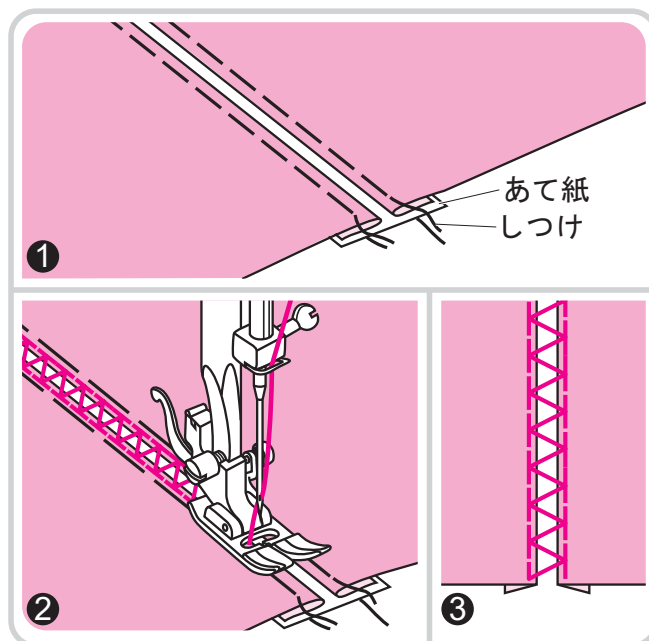


布地と布地の間を離して、糸でかがる方法です。

①布はしと布はしの間隔を0.3～0.4cmあけて、
布に薄いあて紙をし、しつけをします。

②布の表から、間隔の中央を中心にしてぬいます。

③あて紙をとります。

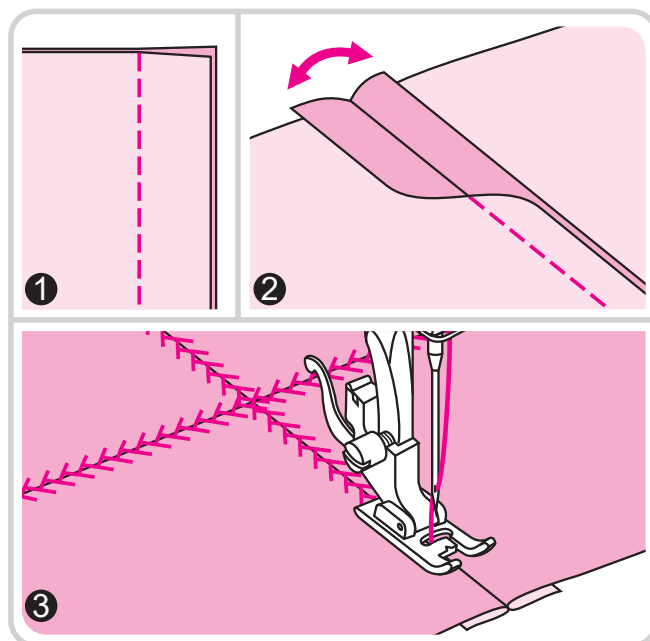


パッチワーク



- ① 2枚の布の右はしを合わせ、地ぬいをします。
- ② 地ぬい部分を折り目にして、図のように2枚の布を広げます。

- ③ 布の表から、地ぬいの線を中心にしてぬいます。

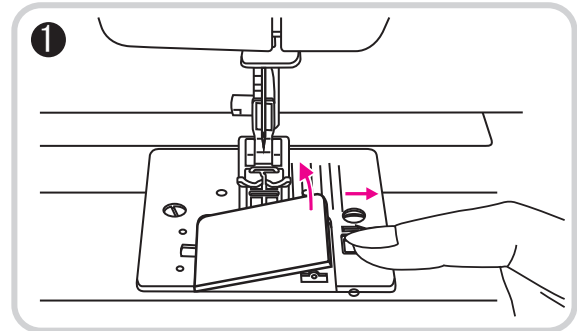


ミシンのお手入れ

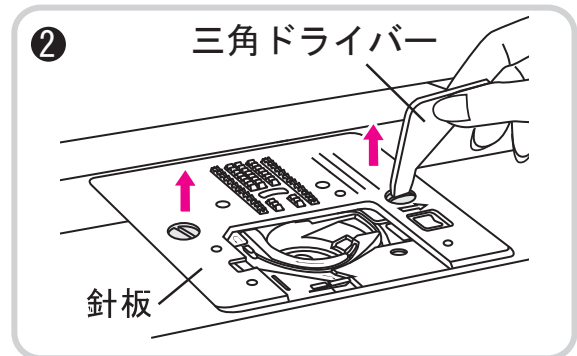
▲注意 ケガ防止のために
お手入れの際は必ず電源プラグを抜いてください。

● 内カムと送り歯の掃除

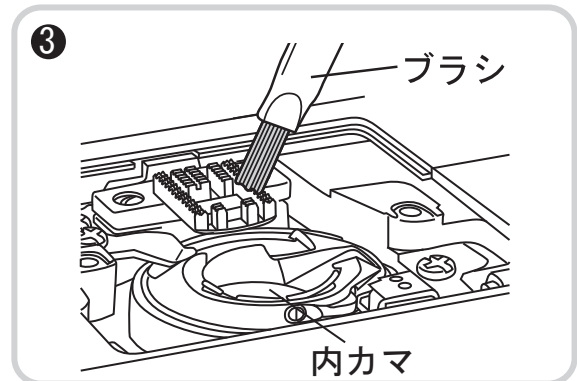
① カマカバーを取り外して、ボビンを取り出します。



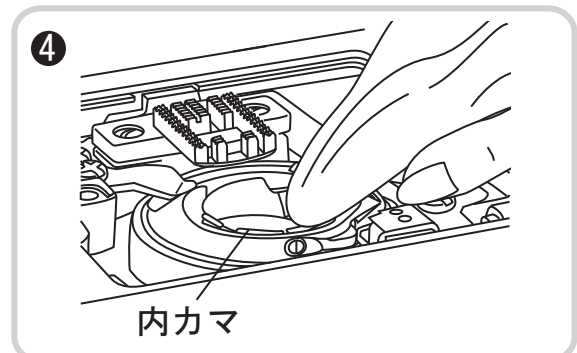
② 針板の止めネジ（２ヶ所）を付属の三角ドライバーで外し、針板を取り外します。



③ ブラシで送り歯に付いた糸クズやほこりを掃除します。



④ 内カムをブラシで掃除し、布などで軽く拭きます。掃除が終わったら、針板を取り付け、止めネジ２ヶ所を三角ドライバーでしっかりと止め、カマカバーを取り付けてください。



LED ライトの交換

ミシンに装備されているLEDライトは非常に長持ちなので、通常は交換の必要はありません。もし万が一、交換の必要が生じた場合には、お買い上げのお店にご相談ください。

困ったときには

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてください。

※糸調子が合わない原因は、糸かけやボビンのセットが誤っていることがほとんどです。一旦、上下糸を取り外し、正しくセットし直してください。（18～24 ページ参照）

不調の状態	原因	処置	参照ページ
ミシンが動かない	電源が入っていないとき。	電源を入れます。	16
	スタートストップボタンを押していないとき。	スタート・ストップボタンを押します。	10
	下糸巻き軸が右へ押されているとき。	左へ戻します。	20
	カマに糸やゴミがたまっているとき。	糸やゴミを取りのぞきます。	50
布地が縮む	上下糸のかけ方が間違っていたり、余分な箇所糸が引っかかっているとき。	上下糸を正しくかけ直します。	18～24
	上糸の調子が強すぎる時。	適正な強さに調整します。	30
	布地に対してぬい目の長さが長すぎる時。	適正な長さに調整します。	14～15
ぬい目に輪ができる 針が折れる	上下糸の糸調子が合っていないとき。	上下糸を正しくかけ直します。	18～24
	細い針で厚地をぬったり、細い針に太い糸を使ったとき。	布地に合った針や糸を使います。	27
	針の取り付け方が悪かったり、曲がった針を使用したとき。	正しくつけ直します。	26
	布地を無理に引っ張ったとき。	手は布地にそえるだけにします。	32
	針が正しく取り付けられていないとき。	針を正しく取り付けます。	26
	模様に対して正しい押えが取り付けられていないとき。	模様に合った押えを取り付けます。	14～15
布を送らない	ぬい目の長さが布地に合っていない。	ぬい目の長さを調整します。	31 14～15
	針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	新しい針に取り替えます。	26
	針が糸の太さと合っていないとき。	布地に合った針や糸を使います。	27

困ったときには

不調の状態	原因	処置	参照ページ
ぬい目が飛ぶ	上下糸のかけ方が違うとき。	上下糸を正しくかけ直します。	18～24
	針が正しく取り付けられていないとき。	正しくつけ直します。	26
	針板の下に糸くずがからまっているとき。	糸やゴミを取りのぞきます。	50
	針と布や糸の素材が合っていないとき。	布地に合った針や糸を使います。	27
上糸が切れる	針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	新しい針に取り替えます。	26
	針が糸の太さと合っていないとき。	布地に合った針や糸を使います。	27
	上糸の調子が強すぎる時。	上下糸を正しくかけ直します。	18～24
	針の取り付け方が違うとき。	正しく付け直します。	26
	糸が必要以外のところからみついているとき。	上下糸を正しくかけ直します。	18～24
	ご使用の糸が古いとき。	新しい糸に替えます。	27
下糸が切れる	ボビンのセット方法が間違っているとき。	正しくセットし直します。	21
	カマの中で下糸がからみあっているとき。	からんだ糸を取り除き、内カマと送り歯の掃除をします。	50
ボビンに糸が巻けない	ボビンが下糸巻き軸に完全に差し込まれていないとき。	完全に差し込みます。	19
布の裏で糸がからまる	上下糸が正しくかかっているとき。	上下糸を正しくかけ直します。	18～24

この項に記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店におたずねください。

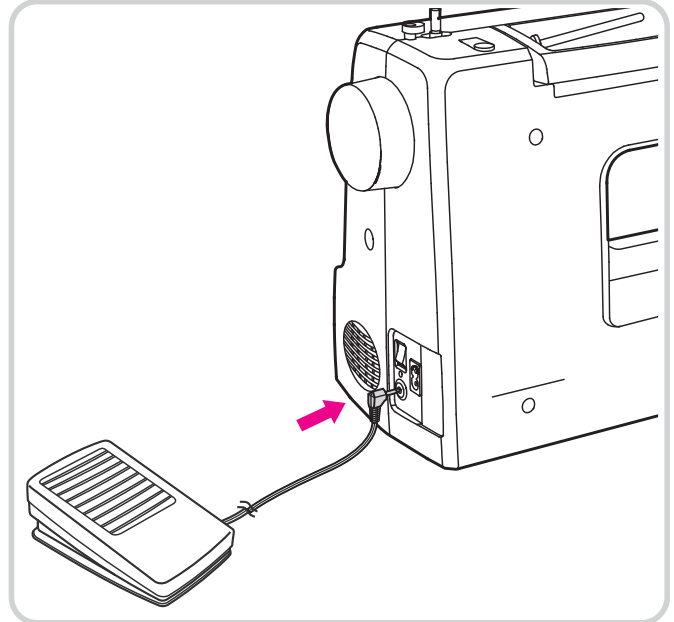
フットコントローラーを使うとミシンのスピードを足で調節することができます。

⚠ 警告 感電、火災を防ぐために

コントローラーは落としたり、座布団の下において使用しないでください。
 コントローラーを接続するときは必ず電源スイッチを切ってください。

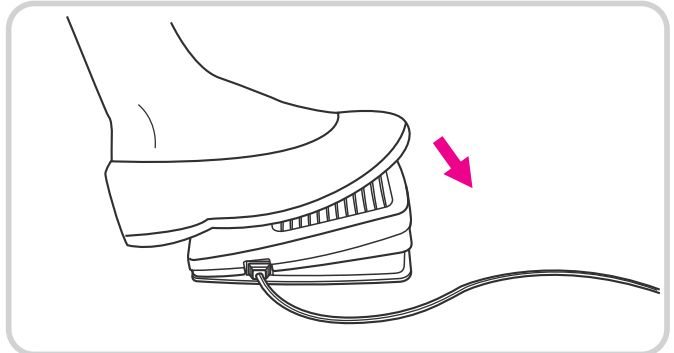
● 接続の仕方

右図のように、フットコントローラーのプラグをコントローラー差込口に差し込んで接続します。



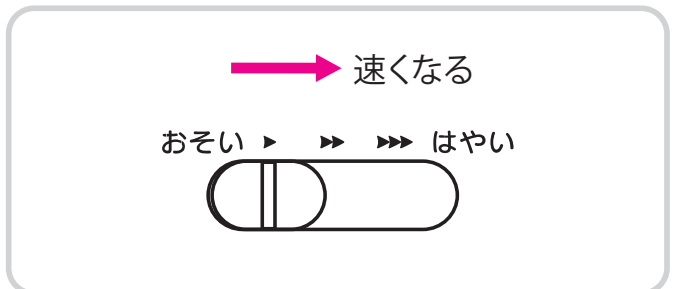
● コントローラーの使い方

ペダルを踏むとミシンがスタートし、強く踏み込むほどぬうスピードが速くなります。
 軽く踏み込むと、ぬうスピードはゆっくりです。
 ペダルを放すとストップします。



フットコントローラーを取り付けているときミシン本体にあるスピード調整レバーは、最高スピードを調整します。

速くしたいときは、右にしてください。



● 針上下停止位置の設定変更

このフットコントローラーは（8001 型）は、ミシンの針停止位置の設定変更ができます。

- ・針が上に上がった状態で、フットコントローラーを一度踏むと、停止時の針位置が下に変更されます。
- ・針が下に下がった状態で、フットコントローラーを一度踏むと、停止時の針位置が上に変更されます。

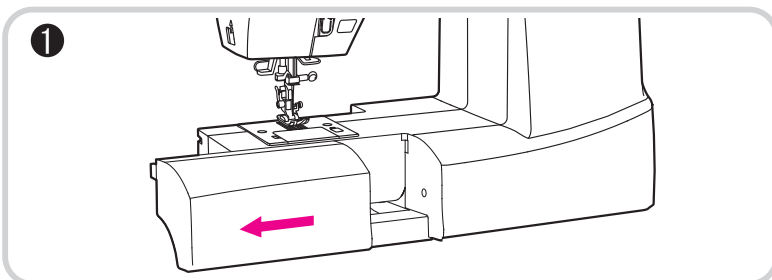
ワイドテーブル

※機種により option となります。

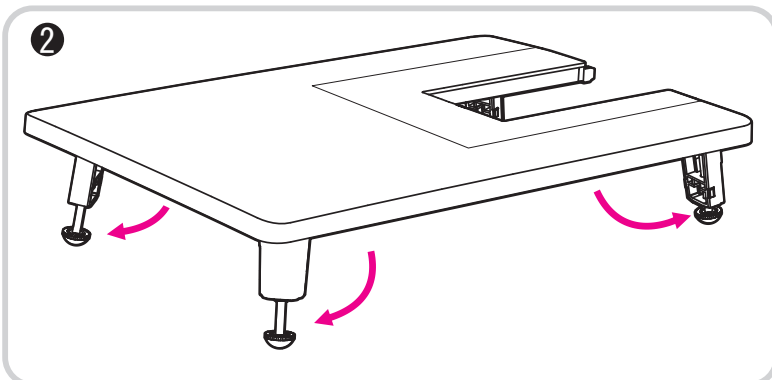
ワイドテーブルを装着すると、手元が広くなり、洋服などの大物がぬいやすくなります。

● 取り付け方

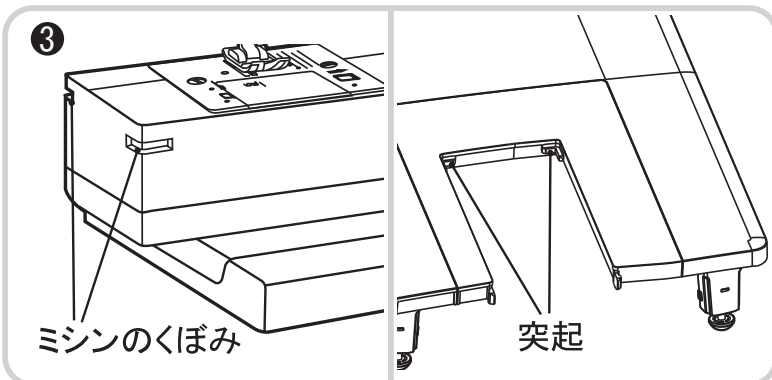
① ミシンの補助テーブルを、左方向へ引いて取り外します。



② ワイドテーブルの脚を4カ所立てます。

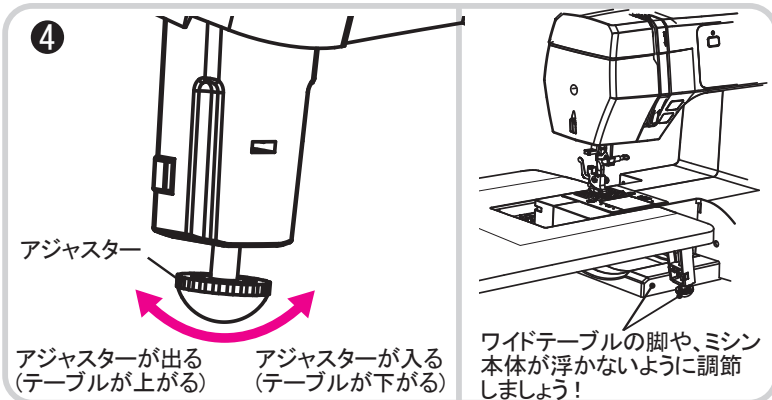


③ ミシンとワイドテーブルを水平な場所に置き、ミシンのくぼみにワイドテーブル内側の突起を合わせます。



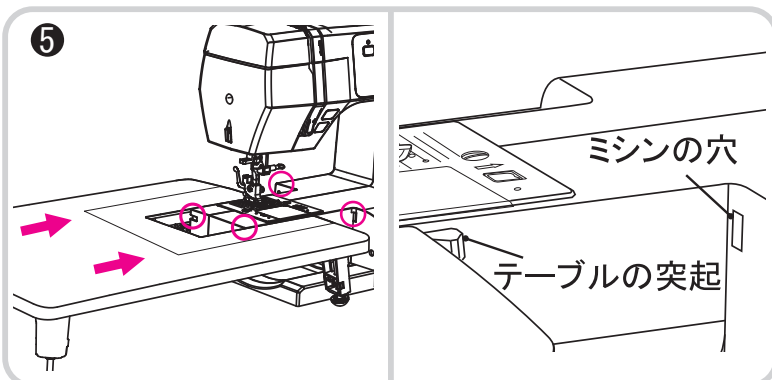
④ テーブルをミシンに取り付ける前に、脚の下にある4カ所のアジャスター部分を回し、ミシンの高さでワイドテーブルの高さを合わせます。

時計回りに回すと、アジャスターが出てテーブルが上がります。反時計回りに回すとアジャスターが入りテーブルが上がります。



⑤ テーブルを左に水平に押し込み、前後の穴にテーブルの突起を合わせて取り付けます。

※突起が穴に入りにくいときは、ミシンを軽く持ち上げてください。



■アフターサービスと保証

- このマシンには保証書がついています。
- 保証書は、お買い上げのお店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げの日から1年間です。ただし内蔵されているマイコン・メイン基板は2年間です。
- 保証期間中でも有料になることがありますので、ご了承ください。
(保証書に詳細を記載してありますので、そちらをご覧ください。)
- このマシンは日本国内専用機種ですので、海外でのご使用はできません。また、海外での保証、アフターサービスは受けることができません。
- 保証期間経過後の修理につきましては、お買い上げのお店にご相談ください。
当社は、このマシンの補修用性能部品を、製造打ち切り時点から最低8年間保有しています。

■仕様表

項目	仕様
型式	HZL-78H
LED ライト	5V Max. 100mW
本体寸法	幅 399 × 高さ 297 × 奥行 178 (mm)
本体質量	約 5.6 kg (本体のみ)
定格電圧/消費電力	100V / 70W 50 / 60Hz

JUKI

JUKI 株式会社

〒206-8551 東京都多摩市鶴牧 2-11-1

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、お買い上げのお店、または下記のお客様相談室へお問い合わせください。

フリーダイヤル

☎0120-677-601

年末年始・夏季休暇・祝祭日を除く

平日(月~金) 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00

Copyright © 2022-2024 JUKI CORPORATION

本書の内容を無断で転載、複製することを禁止します。

購入店名 後日のために記入しておいてください。
サービスを依頼されるときお役に立ちます。

電話 (- -)

購入年月日： 年 月 日